

60229

教科書文庫

6.
410
34-1950
01309 49696

C Y M

Kodak Gray Scale

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches
cm

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



文部省検定済教科書
新教育実践研究所編

12
二葉

小算418

教育部
資料室

小学算数



広島大学図書

0130449696

四年下

庫
50
96



中央図書館

寄贈

教科書文庫
6
410
34-1950
0130449696

広島大学図書
0130449696



小学算数

四年下

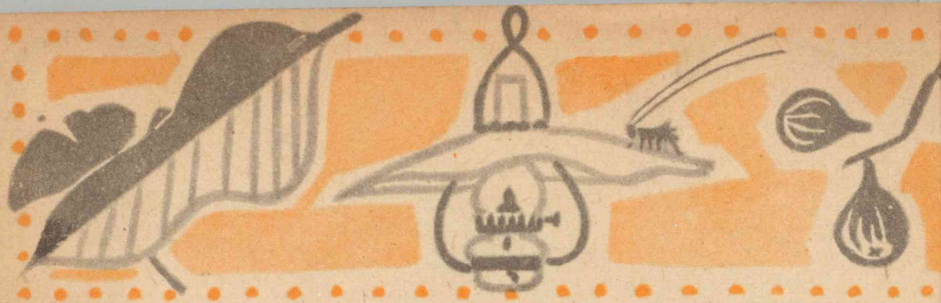


広島大学図書
0130449696



広島大学
教育部図書

昭和25年 月 日
文部省検定済 小学校算数科用



もくじ

VI 運動会	5
一 運動会の計かく	6
二 徒競走の組わけ	10
三 運動会の練習	19
● この単元のまとめ	28
VII 学級園のとりいれ	35
一 組わけ	36
二 重さくらべ	40
三 いもの数	46
四 一つのいもの重さ	51
● この単元のまとめ	58
VIII 年のくれ	61
一 炭はこび	62
二 買いもの	66
● この単元のまとめ	73



IX 新年	77
一 こよみ作り	78
二 新年子供会	87
● この単元のまとめ	96
X お店のけんきゅう	103
一 お店しらべ	104
二 お店の計かく	109
三 お店ごっこ	115
● この単元のまとめ	123
XI 四年のせいり	127
一 学級ひのせいり	128
二 学級文庫のせいり	130
● この単元のまとめ	137
● 単元一覧表	142



この教科書を使われる皆様へ

小学校の算数教育の目標は、日常生活に必要な数・量・形について、正しく理解させ生活を数量的に処理する能力と、社会的で自主的科学的な態度・習慣を養うことである。

この目標を達成するために、この教科書を作るにあたっては、算数数学科学習指導要領に示されてある具体的な目標のほかに、特につぎのような点について注意をはらった。

- (1)事前に計画をたててそれに従ってもの事をする態度習慣。
- (2)自分の考えを数量や図表を使って、正しく、かんげつに発表したり、相手の意見を正しく理解したりする態度。
- (3)真理を愛し、ものごとをさいごまでやりぬく態度。
- (4)いろいろな資料を使う時には、それが適切であるか、信頼できるかというような点について、批判的にみる態度、習慣。
- (5)努力しだいでその事を正しく処理することができるものだという事を自覚させ、更に自信をもつてもの事をする態度。
- (6)新しいものを工夫し創造する能力。

この教科書の特色

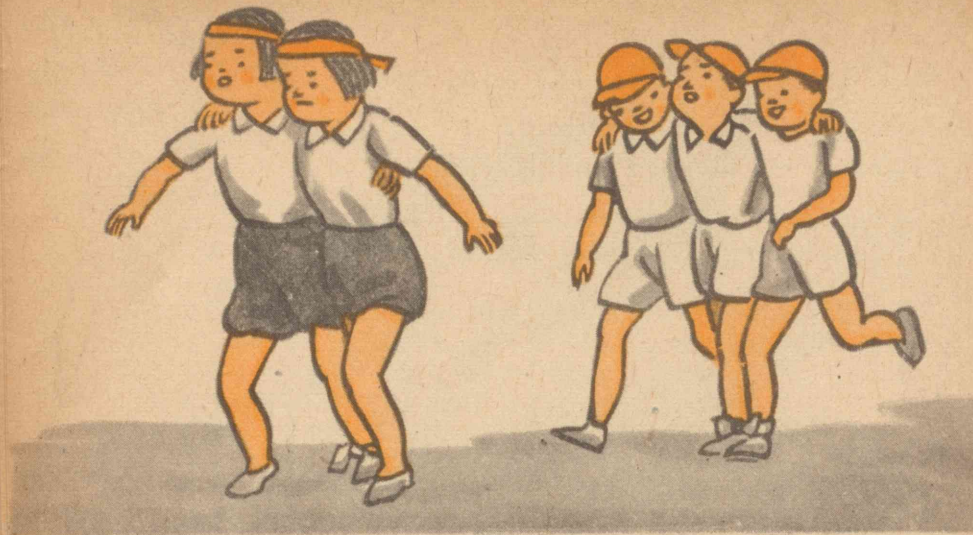
- (1)児童がよりよい生活をしようとする必要感にせまられて、自主的に活動するように工夫されている。
- (2)生活のどこにどの問題があつて数量的にどのように処理したらよいかを示している。
- (3)題材は生活からとり、それに数理体系がとけこんで、両者は一体となっている。
- (4)題材は児童の心理的な発達段階に即してしかも数学史の教える順序に従っている。
- (5)他教材との連絡について十分に考慮している。
- (6)指導にあたる人々のためにも、児童のためにも、使いやすいように作られている。
- (7)児童の能力差に応じて適切に使うことができるように工夫されている。

この教科書を使われる上の注意

- (1)この教科書の内容の助けとして、それぞれの地域に即した題材によって、児童の学習を指導するようにすること。
- (2)進度として、各月に配当したものは、およその目あてであるから、適当に変更せられたい。
- (3)「練習問題」は反ぶく練習させ、巻末の答とくらべて、自己評価させるようにする。
- (4)「テスト」も「練習問題」と同じように自己評価させるようにする。
- (5)「テスト」が(一)(二)とある時には、あとの方の「テスト」では、その単元で学習した以外のものを、復習的にいれてある。これは反ぶくして理解を確実にするためである。
- (6)三年以上は、単元の終りにある「単元のまとめ」によって、その単元の学習事項の理解を確実にさせ、学習方法について反省させるようにすること。

IV 運動会

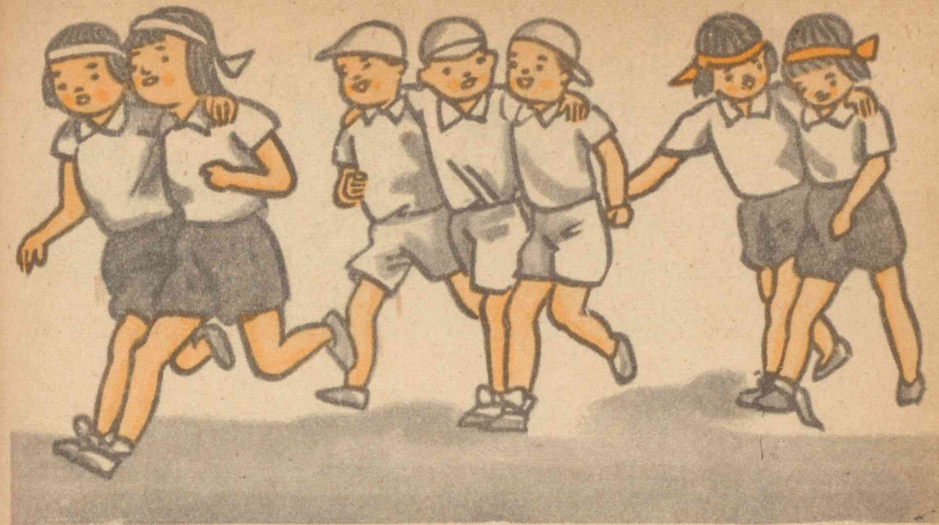




一 運動会の計かく

運動会が近づきました。あきら君の組では、ここの運動会に、どんなことをしたらよいか、そうだん会をひらきました。する種目は、徒競走と綱引のほかに、三年生とっしょに、男女別にするのが一つ、学年で男女別にするのが一つ、男女いっしょにするのが一つで、全部で五つです。

あきら君の組のせいとの数は48人で、男が24人、女が24人です。あきら君たちは、どんな種目をするか、それにはいく組つくるか、そうだんしています。



1 学年で男女がいっしょにする種目

はじめに、学年で男女がいっしょにする種目についてそうだんしました。二人三きゃくがよいという声が多く出ました。ひでお君が、

「女が二人三きゃくをして、男の方は三人四きゃくをしたらどうだろう。」

といいましたので、よく考えて、それにきまりました。

そして、それぞれいく組できるかを考えました。

組のせいとが、赤白の組にわかれしました。男も女も24人ずつですから、一つの組は、男が12人、女が12人です。



- 二人三きやくは、2人が一組になります。
12人では何組できるでしょう。
- 三人四きやくは、3人が一組になります。
12人では何組できるでしょう。

あきら君は、これを下のようにかいて考えました。

$$2 \times \square = 12 \quad 3 \times \square = 12$$

- \square の中に、それぞれ どんな数を入れたらよいか考えています。私たちも考えましょう。
- つぎの \square の中に数を入れなさい。

$$4 \times \square = 8 \quad 5 \times \square = 25 \quad 6 \times \square = 24$$

$$\square \times 3 = 18 \quad \square \times 2 = 12 \quad \square \times 7 = 28$$

つぎの \square の中に ちょうどあてはまる数を入れなさい。

$$2 \times \square = 6 \quad 3 \times \square = 18 \quad 4 \times \square = 4$$

$$5 \times \square = 20 \quad 6 \times \square = 30 \quad 7 \times \square = 56$$

$$1 \times \square = 8 \quad 8 \times \square = 72 \quad 6 \times \square = 42$$

$$9 \times \square = 18 \quad 5 \times \square = 40 \quad 8 \times \square = 32$$

$$\square \times 8 = 40 \quad \square \times 9 = 54 \quad \square \times 7 = 21$$

$$\square \times 3 = 27 \quad \square \times 4 = 32 \quad \square \times 5 = 30$$

$$\square \times 7 = 35 \quad \square \times 9 = 36 \quad \square \times 3 = 9$$

$$\square \times 6 = 54 \quad \square \times 4 = 20 \quad \square \times 2 = 16$$

$$54 = 9 \times \square \quad 42 = 7 \times \square \quad 64 = 8 \times \square$$

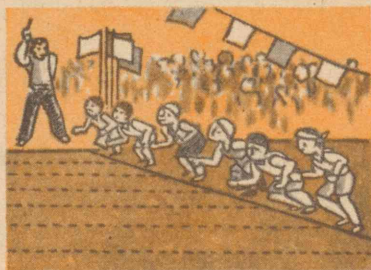
$$24 = 8 \times \square \quad 81 = 9 \times \square \quad 63 = 7 \times \square$$

$$49 = \square \times 7 \quad 48 = \square \times 8 \quad 27 = \square \times 9$$

$$24 = \square \times 6 \quad 36 = \square \times 6 \quad 28 = \square \times 7$$

2 徒競走の組分け

徒競走は 男がさきにかけて、それから女がかかるのだそうです。走るコースは6コースできるそうです。



24人の男の子が、一回に6人ずつかけると、何組できるか考えています。

あきら君は、前と同じように

$$6 \times \square = 24$$

と書いて考えていますと、先生がそれをごらんになって

「よい考えをしているね。そのようなしかたは、別にこんなふうにもかきます。そして、これをわり算といいます。」

といって、黒板に $24 \div 6$

とお書きになり

「 $24 \div 6$ は24の中に、6がいくつあるかという

ことで、「二十四わる六」とよみます。この答は、前の $6 \times \square = 24$ の \square を、もとめるときのように、6に何をかけたら24になるかを、かけ算九九を使って考えるのです。」

と説明して下さいました。

あきら君たちは $24 \div 6$ の答はいくつになるか考えています。私たちも考えてみましょう。

ちょうどそこへ賞品係の先生が

「この組は、一等、二等、三等の賞品は、それぞれ何本ありますか。」

とききに来られました。先生が

「8人分ずつ用意してください。」

とおっしゃいました。

先生は、どういうふうにお考えになって、8人とお出しになったのでしょうか。



わり算のしかた

$$24 \div 6 = 4$$

6に何をかけたら24になるか考えて「六・四 24」として、答は4です。

つぎのわり算をしなさい。

$$8 \div 2 \quad 18 \div 3 \quad 20 \div 4$$

$$15 \div 3 \quad 16 \div 2 \quad 12 \div 6$$

$$28 \div 7 \quad 48 \div 8 \quad 21 \div 3$$

$$45 \div 9 \quad 63 \div 7 \quad 64 \div 8$$

$$36 \div 4 \quad 27 \div 9 \quad 36 \div 6$$

$$49 \div 7 \quad 32 \div 4 \quad 16 \div 8$$

もっと練習しましょう。

$$20 \div 5 \quad 35 \div 7 \quad 9 \div 3$$

$$72 \div 8 \quad 54 \div 9 \quad 42 \div 6$$

$$24 \div 6 \quad 12 \div 3 \quad 40 \div 5$$



3 学年で男女別にする種目

学年で男女別にする種目は、男はだるま運び、女は音楽ゆうぎにきました。

だるま運びは、各組のせいとがいっしょになって、赤白赤白の4組に分かれます。あきら君たちは、自分たちの組では、一つの組に何人ずつになるか考えています。

あきら君は、24人を四つに分ければよいのだから、やはりわり算のしかたで、

$$24 \div 4$$

と書いて、かけ算九九を使って、いくらになるか考えています。

一組に何人ずつになるでしょう。



学年全体では、一つの組が28人になるそうです。
4人で一つのだるまを運ぶと、いく組できるでしょう。もし人数があまったら、どうしたらいいでしょう。

女子の音楽ゆうぎは、八つのわになってするそうです。よし子さんたちは、せいの同じ位の人が一つのわにはいるように考えて、24人を八つに分けようとして、一つのわに何人はいればよいかつぎのように書いて考えています。

$$24 \div 8$$

一つのわに何人ずつはいればいいでしょう。

かず子さんは、練習のつごうを考えて、一つの組は二つのわを作ればよいのだから、組の人数を二つにわけてもよいと思って、 $24 \div 2$ と書きました。これでいいでしょうか。

わり算のしかた

$$24 \div 4 = 6$$

4に何をかけたら24になるか考えて、「四・六 24」とする。

つぎのわり算をしなさい。

$24 \div 3$	$25 \div 5$	$12 \div 4$
$10 \div 5$	$6 \div 3$	$14 \div 2$
$56 \div 7$	$54 \div 6$	$28 \div 4$
$18 \div 9$	$40 \div 8$	$48 \div 6$
$42 \div 7$	$118 \div 6$	$81 \div 9$

もっと練習をしましょう。

$45 \div 5$	$72 \div 9$	$32 \div 8$
$27 \div 3$	$35 \div 5$	$63 \div 9$
$30 \div 5$	$36 \div 9$	$16 \div 4$
$15 \div 3$	$30 \div 6$	$21 \div 7$
$6 \div 6$	$3 \div 1$	$0 \div 4$



練習

- (1) 40円のおかねを5人に等しく分けると、一人分はいくらになりますか。
- (2) 48人の生徒が毎日6人ずつでおそうじをすることになれば、何日ごとに1回ずつになるでしょう。
- また、8人ずつではどうですか。
- (3) つぎの間に答えなさい。
- (イ) 何さつの3倍が12さつですか。
- (ロ) 何匹の5倍が15匹ですか。
- (ハ) 何の6倍が42になりますか。
- (ニ) 何の9倍が72になりますか。
- (4) つぎの答はいくらになりますか。
- (イ) 28人わる4は。
- (ロ) 54円わる9は。
- (ハ) 42まいを7つにわけると。
- (ニ) 36本を6本ずつにすると。

- (5) 6人の生とが40mのところの間がどこも同じになるようにするには、何メートルずつはなれて立てばいいでしょう。

- (6) つぎのわり算をしなさい。

$$8 \div 4 \quad 12 \div 2 \quad 24 \div 6$$

$$21 \div 3 \quad 40 \div 5 \quad 72 \div 8$$

$$45 \div 9 \quad 24 \div 8 \quad 35 \div 7$$

$$36 \div 4 \quad 56 \div 7 \quad 36 \div 6$$

$$63 \div 9 \quad 16 \div 4 \quad 18 \div 2$$

$$15 \div 3 \quad 30 \div 5 \quad 32 \div 8$$

$$49 \div 7 \quad 72 \div 9 \quad 20 \div 5$$

$$28 \div 4 \quad 27 \div 3 \quad 18 \div 6$$

$$48 \div 6 \quad 42 \div 7 \quad 16 \div 8$$



テスト

(1) $42 \div 6$ はどのだんの九々で答をみつけますか。

(2) つぎのわり算をしなさい。

$10 \div 2$ $9 \div 3$ $12 \div 4$

$54 \div 6$ $64 \div 8$ $21 \div 7$

$48 \div 8$ $36 \div 9$ $42 \div 6$

$24 \div 4$ $45 \div 5$ $32 \div 4$

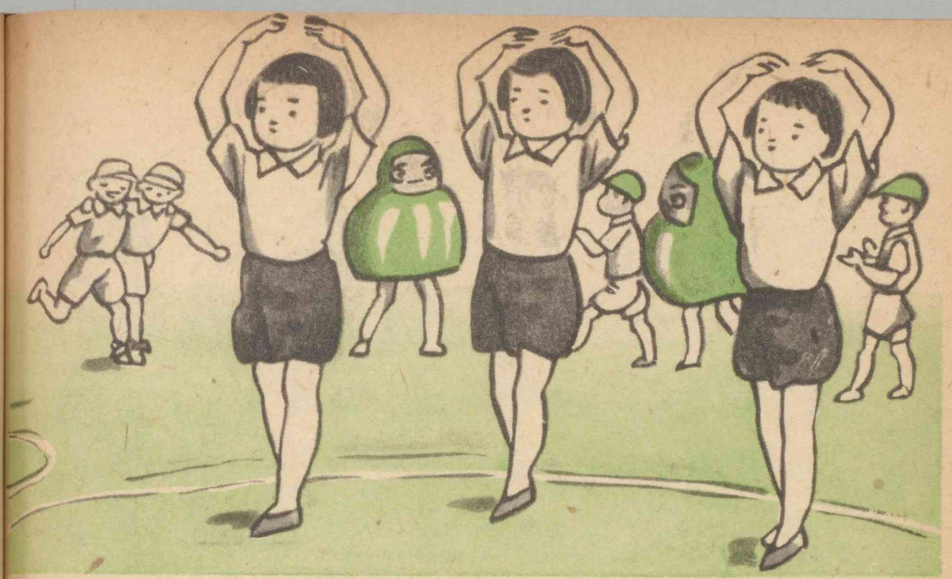
$25 \div 5$ $28 \div 7$ $81 \div 9$

(3) 24 cm の紙に同じはばに線を引こうとしています。

線の間を3センチずつにすれば、いくつにくぎられるでしょう。

また六つにくぎれば、はばは何センチずつになるでしょう。

(4) 30 ページの問題を5日間にするには、1日何ページずつすればいいでしょう。



二 運動会の練習

運動会の種目がきまったので、練習をはじめました。

1 音楽ゆうぎの練習

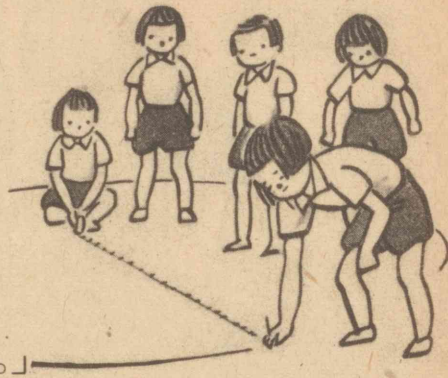
女子が音楽ゆうぎの練習をするのに、まるいわを作りましたが、きれいなわになりません。それで地面に円をかいて、することになりました。

はじめ、手をつないで大たいの円を作り、そのさしわたしをはかったら、8 m ありました。みんなはどうしたら円をかくことができるか、いろいろそらだんしています。

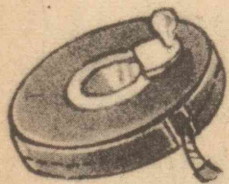
どうしたら円をかくことができるでしょう。

ひでお君が、

「ひものはしを1人が
地面につけていて、も
う1人がひものほかの
はしに白ぼくをつけて
まわったらいいだろう。」



といたので、みんなはなるほどといいまし
た。きよし君が、先生の所へひもをかりに行きま
すと、先生が使いみちをおききになって、
「ひもよりも巻尺の方がいいだろう。」
とって、巻尺をかしてくださいました。



あきら君が巻尺をおさえて、ひ
でお君がまわって書くことになり
ました。さしわたしが8 mなので
巻尺を8 mのばしてみると、ずい分大きくなって
しまったので、よく考えて、書くときには、さし
わたしの半分の長さでよいことに気がつきました。
二人は円をかいています。私たちもかきましょう。

○ さしわたしが8 mの円をかく時に、巻尺は何
メートル使えばよいでしょう。

円のさしわたしのことを、直径といいます。
直径の半分の長さを半径といい、真中の巻尺をお
さえた点は円の中心、かいた線を円周といいます。

- 直径10 mの円の半径は何メートルですか。
- 直径14 mの円の半径は何メートルですか。
- 半径6 mの円の直径は何メートルですか。
- 半径3 mの円の直径は何メートルですか。

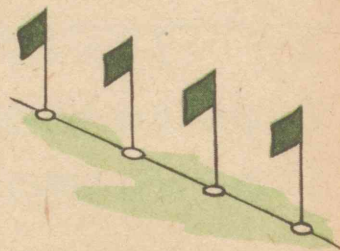
女の子たちは、この円を使って ゆうぎの練習
をはじめました。あきら君たちは、いろいろな大
きさの円もかいています。

2 だるま運びの練習

だるま運びの練習をすることになりました。ほ

かの生とも大ぜい練習しているので、運動場のはしですることになりました。使える場所のはばをはかってみると、21 mありました。4組の位置をきめるのに、何メートルおきにすればよいか考えて、間が3つだから21 mを3でわればよいことがわかりました。

間は何メートルずつになるでしょう。



ひでお君は、まず巻尺を21 mのばして、それにそって真直ぐな線をひきました。それから7 mずつ間をとって、線の上に小さな円をかきました。

あきら君は、この円の中に旗をたてています。

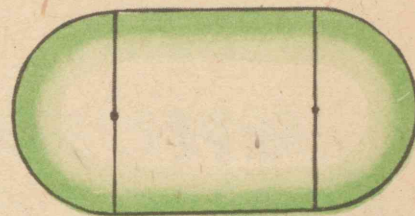
ひでお君は、きよし君といっしょに、この線から20 mはかって、出発点をかきました。

ここから出発します。

みんなは練習をはじめました。

3 徒競走の練習

徒競走の練習をするのに、トラックの線をかこうと思って形を先生におたずねしました。先生は、



右のような図におかきになりました。

あきら君たちは、いろいろそうだんして、つぎのようなしかたで、トラックの線をかきました。

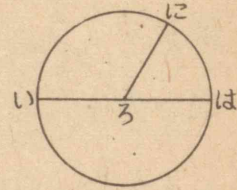
1. 運動場の真中に、一辺が30 mの正方形をかく。
2. たての真中を中心にして半径15 mの円をそれぞれ両がわにかく。
3. そのはしをつなぐ。

かきおわってから、まわりをはかって見ると、大たい150 mありました。

○ 私たちもこのようにして、てきとうなトラックをかきましよう。



練習



(1) 右の図を見て、つぎのことに答えなさい。

(い) この円の中心はどこですか。

(ろ) 半径はどれですか。

(は) 直径はどれですか。

(2) つぎの () の中にちょうどよい言葉を入れましょう。

(い) 一つの円では、半径はどれも ()

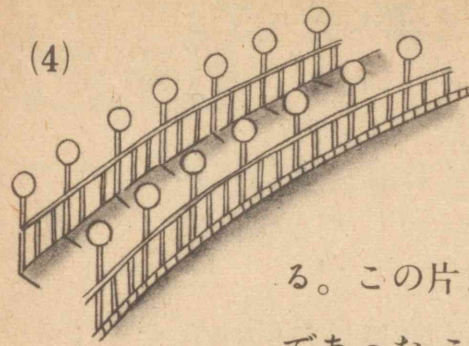
(ろ) 一つの円の直径の長さはどれも ()

(は) 中心から円周までの長さを ()

(3) 半径3センチメートルの円をかくと、

(い) 直径は何センチメートルになるでしょう。

(ろ) 円周はおよそ何センチメートルあるでしょう。



(4)

あるはしのですりには8メートルごとに電燈がついてい

る。この片がわの電燈の数は七こであった。このはしの長さは何メートルといえましょう。

(5) つぎのわり算をしましょう。

$6 \div 2$ $12 \div 3$ $20 \div 4$

$15 \div 3$ $4 \div 2$ $35 \div 5$

$14 \div 2$ $30 \div 6$ $14 \div 7$

$27 \div 9$ $56 \div 8$ $10 \div 5$

$63 \div 7$ $54 \div 9$ $40 \div 8$

$24 \div 3$ $16 \div 2$ $18 \div 3$

(6) つぎの半分はいくつでしょう。

10, 12, 18, 20, 40, 30



テ ス ト

- (1) 直径12mの円をかくには、半径は何メートルにすればよいか。
- (2) あきらさんの1歩の歩はばは65cmだそうです。ある道を横切るのは8歩であったといいます。この道はばは約何メートルでしょう。
- (3) 直径28cmの切りかぶのまわりの長さは、およそ何センチメートルになるでしょう。
- (4) 12このもちがしを どれにも同じずつに4皿にもるには、一皿に何個ずつもればいいでしょう。
- (5) 24ページあるノートを1週間に3ページずつつかえば、何週間つかえますか。
また、4ページずつとすればどうでしょう。
- (6) 鉛筆が1ダースあります。1ヶ月に2本ずつ使えば、何ヶ月分あるでしょう。

(7) つぎのわり算をなさい。

A $8 \div 4$ $20 \div 5$ $6 \div 6$

$14 \div 7$ $24 \div 8$ $18 \div 9$

$24 \div 4$ $25 \div 5$ $36 \div 6$

$35 \div 7$ $32 \div 8$ $54 \div 9$

B $12 \div 4$ $15 \div 5$ $24 \div 6$

$21 \div 7$ $8 \div 8$ $9 \div 9$

$16 \div 4$ $30 \div 5$ $18 \div 6$

$42 \div 7$ $40 \div 8$ $45 \div 9$

C $28 \div 4$ $40 \div 5$ $54 \div 6$

$49 \div 7$ $64 \div 8$ $63 \div 9$

$32 \div 4$ $45 \div 5$ $42 \div 6$

$63 \div 7$ $56 \div 8$ $81 \div 9$

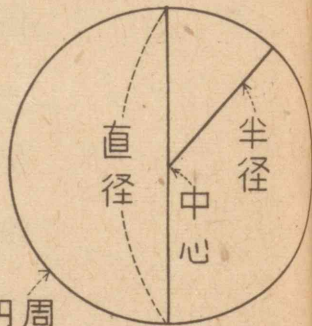


この単元のまとめ

(1) 全体の中にある数がいくつあるか、または全体をいくつかに分けるときには、わり算をする。たとえば15の中に3がいくつあるかは $15 \div 3$ 、15を3つに分けるといくつになるかも $15 \div 3$ と書く。

(2) わり算の答は、かけ算九九を使って出す。たとえば $15 \div 3$ は $\square \times 3 = 15$ か $3 \times \square = 15$ と考えて、 \square の中にちょうどあてはまる数を、かけ算を使ってみつける。

(3) 円の中心を通る、はしからはしまでの直線を直径、直径の半分を半径という。



(4) 運動場の長さのように大きなきよりはかるのには巻尺を使う。

(5) トラックをつくるような時には、校庭のじつさいの形、広さ等をよく考えてからすることが大切である。



練習

(1) つぎの答の正しくないものを、なおしなさい。

$7 \times 5 = \square$ $6 \times 9 = \square$ $4 \times 7 = \square$

$54 = \square \times 9$ $18 = 9 \times \square$ $24 = \square \times 6$

$10 \times 4 = \square$ $35 \div 5 = \square$ $30 \div 6 = \square$

$5 \div 5 = \square$ $72 \div 8 = \square$ $27 \div 9 = \square$

$36 \div 4 = \square$ $7 \div 7 = \square$ $56 \div 7 = \square$

(2) つぎの中で正しいものに ○ をつけなさい。

(い) 36は

(ろ) 20は

① 10の3倍である

① 10が2つである。

② 3と6とよせたものである。② 2と0とである。

③ 9の4倍である。

③ 3の7倍より1多い。

④ 63のはんたいである。

④ 50の半分である。

(3) 上のだんの答と下のだんの答の等しいものを線でむすびなさい。

$18 \div 3$ $27 \div 9$ $30 \div 6$ $36 \div 4$

$18 \div 6$ $27 \div 3$ $30 \div 5$ $40 \div 8$

(4) コンパスを使って半径 3 cm のきれいな円を書きなさい。

(い) 円を書くには、どこから書きはじめれば、うまく書けますか。

つぎのうちどれでしょう。

(左上から、左下から、右上から、右下から)

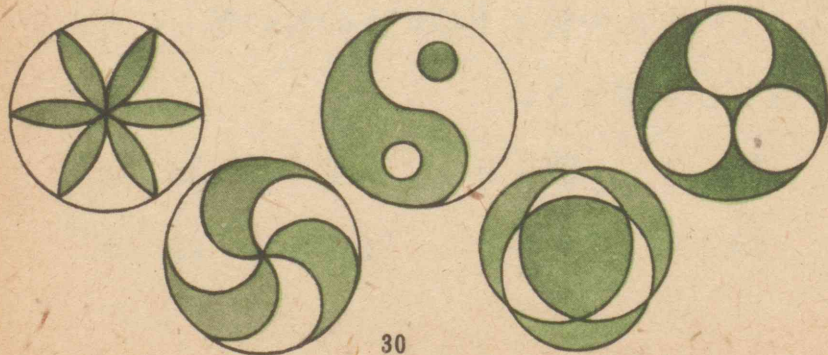
(3) 中心の点と鉛筆の先のながさはどうですか。

(鉛筆がみじかい方がよい、同じくらいがよい、鉛筆の方をながくする)

(は) 中心はどうすれば動かなくて書けますか。

(中心に力をおく、鉛筆の先に力を入れる、かるく廻す)

円を使って、もようをかいてみましょう。



テスト

(1) つぎの計算をしなさい。

$$\begin{array}{r} 683 \\ + 313 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 543 \\ + 688 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 291 \\ + 935 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 435 \\ + 576 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 804 \\ - 695 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 915 \\ - 768 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 734 \\ - 587 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 623 \\ - 476 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 36 \\ \times 7 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 48 \\ \times 9 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 57 \\ \times 8 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 49 \\ \times 6 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 26 \\ \times 65 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 48 \\ \times 49 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 37 \\ \times 83 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 59 \\ \times 27 \\ \hline \end{array}$$

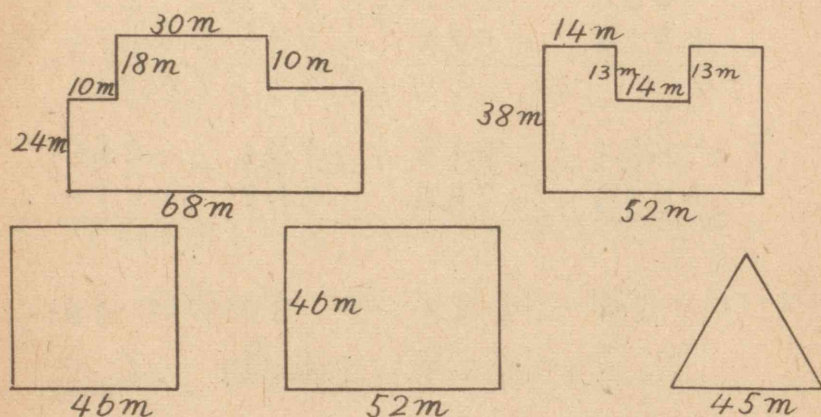
$$\begin{array}{r} 472 \\ \times 3 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 251 \\ \times 9 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 380 \\ \times 7 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 169 \\ \times 8 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 189 \\ \times 51 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 358 \\ \times 24 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 467 \\ \times 16 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 276 \\ \times 30 \\ \hline \end{array}$$

$$45 \div 5 \quad 32 \div 4 \quad 18 \div 2 \quad 21 \div 3$$

$$42 \div 7 \quad 48 \div 6 \quad 64 \div 8 \quad 72 \div 9$$

- (2) つぎのような地面があります。
そのまわりはいくらありますか。

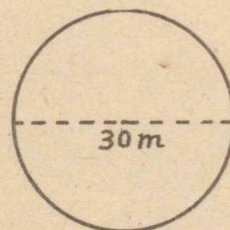


- (3) 木村君の家から学校までは、約350mあるという。家から学校までの往復を一週間すれば、その徒歩の距離はいくらになるか計算しなさい。但し日曜日には休みます。
- (4) 12人の生徒が4そうのボートに分かれてのるには、1そうに何人ずつのればよいでしょう。
- (5) 402のビスケットを1人に52ずつ分ければ、何人に分けられるでしょう。



自由研究

ひでお君たちは、円形ドッジボールをするために、直径が30mの円を書きました。そして円周は何メートルぐらいあって、直径の何倍ぐらいだろうかと考えました。



上の図は、ひでお君たちが書いた円形ドッジボールの円です。まわりをはかったら、およそ90mありました。直径が30mで、円周が90mですから、30の3倍が90で円周は、直径のおよそ3倍になっているのだということがわかりました。

ひでお君たちは、円い物を見つけては、直径と円周とをくらべています。

あきら君は、お茶づつの円周と直径をはかろうとしています。

円い物のまわりをはかるには、どんなしかたがあるでしょう。

直径をはかろうとして、中心がわからないのでこまりました。いろいろはかっている中に、一番長いのが直径だと分りました。

私たちも、円い形のものを見つけて、直径と円周をはかって見ましょう。そして、円周が直径の何倍になるか、しらべましょう。

物の名前	円	周	直 径

つぎのわり算の答はいくらですか。

$20 \div 2$ $30 \div 3$ $40 \div 4$ $50 \div 5$

$60 \div 6$ $70 \div 7$ $80 \div 8$ $90 \div 9$

$20 \div 10$ $40 \div 10$ $70 \div 10$ $90 \div 10$

Ⅶ 学級園のとりいれ



一学きになえをうえつけてから、みんなで力をあわせていっしょうけんめいに世話をしてきた学級園のさつまいもは、大分よくできたようです。

きょうは いよいよいもほりをするようになりました。そこで、いもほりについてみんなで話しあいました。

一 組分け

まず、はじめに人数の組分けをきめることになりました。

あきら君たちのクラスの人数は48人です。学級園のさつまいものうね数は、9うねあります。

1うねずつを、それぞれ何人かで手分けしてほることになりましたので、あきら君は、1うねが何人ずつになるかを、しらべました。

$48 \div 9$ はちょうどよくわり切れません。

「45人だとちょうどいいのだがなあ。」と、あきら君は、思わずいつてしまいました。

5人ずつにすると、「九五. 四十五」で、45人でよい。6人ずつにすると、「九六. 五十四」で54人となる。

1うねを5人ずつにすると、9うねで45人になって、3人あまります。

そこで、あきら君は、9うねのうちで、3うねだけは、6人ずつでうけもち、あとの6うねを5人ずつでうけもてばいいと考えました。

先生にこのこととお話すると、先生は、「よく考えましたね。」

$48 \div 9$ のように、ちょうどよくわり切れないであまりがあるときには、

$$48 \div 9 = 5 \dots\dots 3$$

と書いて、48 わる 9 は 5 あまり 3 とよみます。」

と、おしえてくださいました。

「 $9 \overline{)48}$ のようなときは、どのように書くのですか。」

と、あきら君がおたずねすると、

「このように書きます。」

と、おっしゃって紙に右の
ように計算を書いてくださ

いました。

あきら君は、この書きか
たについて考えてみました。

わたくしたちも考えてみましょう。

$$48 \div 9 = 5 \text{ ----- } 3$$

この計算の答がまちがっていないかをためすに
は、どうしたらいいでしょう。

かず子さんは、答の中の5に9をかけて、45、
それに3をよせて 48、これではじめのかずの
48になったから、まちがっていないと考えました。

これでいいでしょうか。わたくしたちも考えて
みましょう。



練習

(1) つぎのわり算をしなさい。答をたしかめてご
らんなさい。

$$9 \div 2 \quad 16 \div 5 \quad 11 \div 2 \quad 10 \div 3$$

$$21 \div 4 \quad 15 \div 6 \quad 18 \div 8 \quad 28 \div 5$$

$$38 \div 7 \quad 40 \div 9 \quad 76 \div 8 \quad 20 \div 3$$

$$29 \div 4 \quad 17 \div 6 \quad 19 \div 2 \quad 39 \div 5$$

$$47 \div 6 \quad 70 \div 8 \quad 41 \div 7 \quad 35 \div 9$$

$$29 \div 5 \quad 31 \div 4 \quad 79 \div 9 \quad 69 \div 8$$

(2) つぎのわり算をしなさい。答をたしかめてご
らんなさい。

$$2 \overline{)13} \quad 4 \overline{)17} \quad 3 \overline{)14} \quad 5 \overline{)13}$$

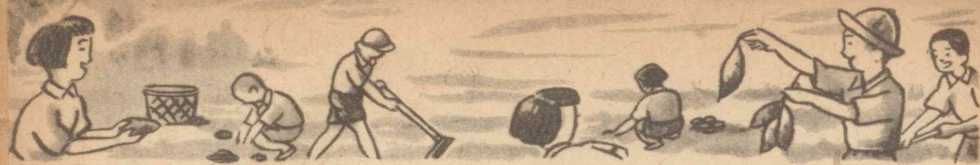
$$5 \overline{)42} \quad 2 \overline{)17} \quad 6 \overline{)50} \quad 4 \overline{)26}$$

$$3 \overline{)25} \quad 4 \overline{)35} \quad 7 \overline{)25} \quad 8 \overline{)20}$$

$$6 \overline{)38} \quad 5 \overline{)39} \quad 2 \overline{)15} \quad 9 \overline{)26}$$

$$4 \overline{)38} \quad 8 \overline{)59} \quad 6 \overline{)27} \quad 3 \overline{)19}$$

$$9 \overline{)57} \quad 7 \overline{)60} \quad 8 \overline{)71} \quad 9 \overline{)80}$$



二 重さくらべ

いよいよいもほりをはじめました。おどろきの声や、よろこびの声で、あちらもこちらもとてもにぎやかです。

「こんなに大きいのがあったわ。」

とちよ子さんが、大きないもをみんなに見せました。

「ぼくのはもっと大きいよ。」

ときよし君も、大きないもをさしあげました。

ちよ子さんのほったいもと、ときよし君のほったいもと、どちらが大きいかくらべあいました。りょう方とも同じような大きさを、どちらが大きいかわかりません。

「重さをくらべればいいね。」

と、そばで見ていた まさお君がいました。

「重さでもよくわからないわ。」

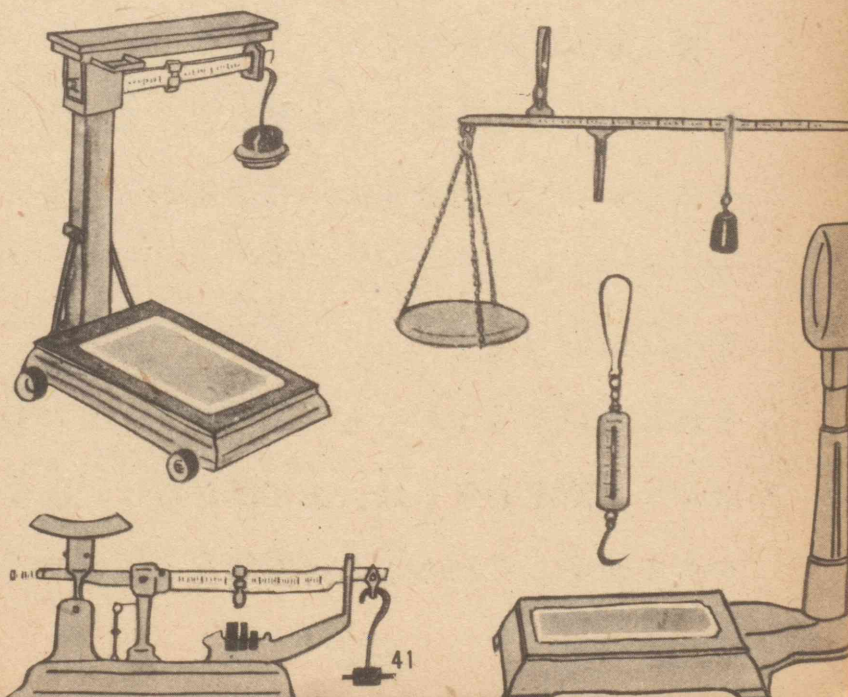
とちよ子さんは、いもをりょう手に一つずつもちながらこたえました。

「はかりをつかえば、はつきりとどちらが重いかわかるね。」

うしろからひでお君がいました。

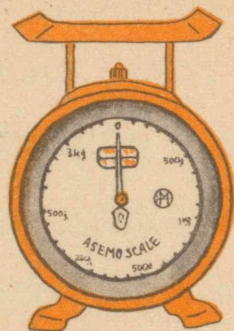
そこで、ときよし君は先生におねがいで、はかりをかしていただくことにしました。

先生といっしょに、はかりをとりにいくと、はかりをしまっておく戸だなには、いろいろなはかりがありました。



「これがいいでしょう」

と、おっしゃって、先生は、
右の図のようなはかりをか
してくださいました。



学級園のそばのたいらな所にはかりをおいて、
さっそくきよし君がいもの重さをはかろうとする
と、

「まってごらん。針が正しく0の所をさしていな
いようだから。」

と、ひでお君がいました。

なるほど、きよし君がよく見ると、まだ何にも
のせてないのに、針は正しく0の所をさしていま
せん。

先生にお話すると

「それはたいそうよいことに気がつきましたね。
はかりを使うときには、まずはじめに、正しい
かどうかをしらべることは大切なことです。」

と、おっしゃりながら、針を正しく0の所をさす
ように、なおしてくださいました。

「先生、このはかりは7kg まではかれるのです
ね。」

ひでお君が、はかりの目もりを見ながらいま
した。

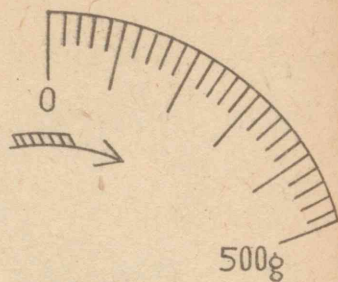
「そうです。このはかりは7kg まではかれます。
はかりを使うとき、そのはかりでどれだけの重
さまではかれるかをしらべておくことも大切な
ことです。」

このほか、先生は、はかりの使い方についてつ
ぎのようなことを話してくださいました。

- はかるまえに、そのもののおよそのけんとう
をつけてからはかる。
- 目もりをよくしらべて、まちがえないように
目もりをよむ。
- しずかに使うようにする。

「先生、これはなんとよむ
のですか。」

と、今までだまっていた、き
よし君が、目もりをさしなが
ら、いいました。



「それは500グラムとよみます。そして 500 g と
書きます。」

と、先生が地面に書きながらおしえてくださいま
した。

「そうすると、500 g までの目もりで、少し長
いのは、100 g, 200 g, 300 g, 400 gを、
あらわしているのですか。」

「そうです。」

「そうすると、600 g, 700 g, 800 g, 900 g
で、おや、つぎが 1 kg ですね。

1000 gを 1 kg というのですね。」

「よくわかりました。その通りです。」

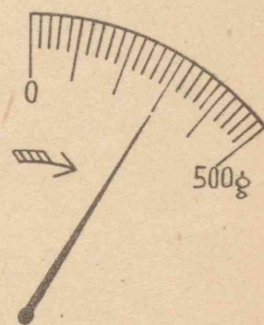
と、先生はわらいながらおっしゃいました。

重さは、グラムをたんいにしてはかるこ
ともできる。

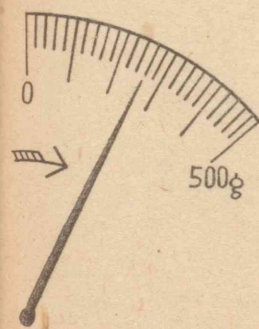
1 グラムは、1 g と書く。

$$1000 \text{ g} = 1 \text{ kg}$$

きよし君は、じぶんのほった
いもの重さをはかってみました。
右の図のようになりました。



これは何グラムといえよ
いでしょう。



ちよ子さんのいものは、左の図
のようになりました。

260 g と、ちよ子さんはよみ
ました。これでまちがないで
しょうか。

きよし君とちよ子さんのいもとは、どちらが重
いでしょう。

三 いものかず

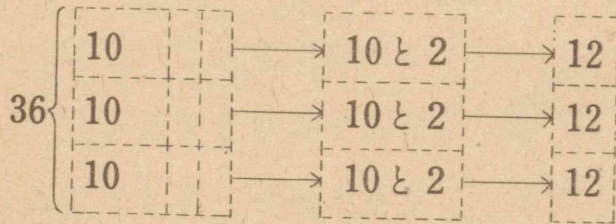
あきら君はみんなで3かぶほりました。大きな
いもや小さいいもがたくさんほれました。かぞえ
てみると、いもかずは全部で36ありました。

あきら君は、1かぶから、いくつとれたかを計
算してみました。

$$36 \div 3$$

あきら君は、つぎのように数えました。

36 は 30 と 6



30を3でわって、10、6を3でわって2、りよ
う方の答をあわせて12。

これでいいでしょうか。

わたくしたちも、考えてみましょう。

$36 \div 3$ は $3 \overline{)36}$ とも書きます。この計算
は、つぎのようになります。

$$\begin{array}{r} 12 \\ 3 \overline{)36} \\ \underline{3} \\ 6 \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

(1) 十の位の3を3でわって、
「三一が三」で 3が1かいある
から、答の1は十の位の3の上に
書く。

(2) 一の位の6を下におろして、3でわって、「三
二が六」で、答は2になるから、この2を、一の
位の6の上に書く。

つぎのわり算をしましょう。

$$\begin{array}{cccc} 2 \overline{)24} & 5 \overline{)55} & 4 \overline{)48} & 3 \overline{)39} \\ 6 \overline{)66} & 2 \overline{)28} & 3 \overline{)33} & 8 \overline{)88} \end{array}$$

あきら君は、この計算をしているうちに、つぎ
のようにかんたんにしてもよいことに気がつきま
した。

$$\begin{array}{r} 12 \\ 3 \overline{)36} \end{array}$$

これでいいでしょうか。
わたくしたちも考えてみましょう。

あきら君たち5人のうねでは、いもはあわせて65とれました。1人でいくつとれたことになるでしょう。

$$65 \div 5$$

あきら君は、前と同じようにして、つぎのよう
に考えました。

65 は 60 と 5

$$\begin{array}{l} 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \end{array} \left. \vphantom{\begin{array}{l} 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \end{array}} \right\} \div 5 \quad \begin{array}{l} \text{で答は } 10 \text{ とあまり } 10 \\ \text{あまりの } 10 \text{ と } 5 \text{ をあわせて } 15 \\ 15 \div 5 = 3 \end{array}$$

答は13となる。

これでいいでしょうか。

$65 \div 5$ は $5 \overline{)65}$ とも書いて、つぎのように計算します。

$$\begin{array}{r} 13 \\ 5 \overline{)65} \\ \underline{5} \\ 15 \\ \underline{15} \end{array}$$

(1) 十の位の6を5でわって、
答は1で、十の位の6の上を書く。
6から5をひいて、1を5の下
に書く。

(2) この1は10のことですから、一の位の5と
いっしょによんで15で、これを5でわって、
答の3は、一の位の5の上を書く。

つぎのわり算をしましょう。

$$4 \overline{)56} \quad 6 \overline{)78} \quad 3 \overline{)54} \quad 5 \overline{)75}$$

$$8 \overline{)96} \quad 7 \overline{)91} \quad 6 \overline{)96} \quad 5 \overline{)95}$$

あきら君は、このような計算は、
は、右のようにしてよいことに気が
がつきました。

$$\begin{array}{r} 13 \\ 5 \overline{)65} \\ \underline{5} \\ 1 \end{array}$$

かず子さんにこのことを話したら、かず子さんは、

「それではこのようにしてもいいの
ね。」

$$\begin{array}{r} 13 \\ 5 \overline{)65} \end{array}$$

とって、右のように書きました。
わたくしたちも考えてみましょう。

わたくしたちも、このようなしかたで、つぎの
計算をしましょう。

$$4 \overline{)64} \quad 2 \overline{)48} \quad 3 \overline{)57} \quad 2 \overline{)52}$$

$$5 \overline{)80} \quad 4 \overline{)92} \quad 7 \overline{)84} \quad 6 \overline{)78}$$

$$2 \overline{)98} \quad 3 \overline{)72} \quad 5 \overline{)85} \quad 4 \overline{)84}$$

$$3 \overline{)84} \quad 4 \overline{)92} \quad 5 \overline{)90} \quad 3 \overline{)96}$$

$$6 \overline{)90} \quad 2 \overline{)76} \quad 9 \overline{)99} \quad 7 \overline{)98}$$

四 一つのものの重さ

京子さんの ほったかぶには いものが少くて、
四つしかとれませんでした。4つのいもはどれも
あまり大きくなって、ぜんぶの重さをあわせて、
580gしかありませんでした。

京子さんは、一つのものの重さはいくらになる
かを計算しています。

580 ÷ 4 この計算はどのようにしたらいいで
しょう。

京子さんは つぎのように考えました。

$$580 = 500 + 80$$

$$500 \left\{ \begin{array}{l} 100 \\ 100 \\ 100 \\ 100 \\ 100 \end{array} \right\} \div 4 \text{ は 答 } 100 \text{ とあまり } 100$$

このあまり100と80で180

180 には10が18ありますから、4でわると、
40 とあまり 20 になります。

20 を 4 でわって答は 5 になります。そこで
 $580 \div 4 = 145$ になります。

これでいいでしょうか。わたくしたちも考えて
 みましょう。

$580 \div 4$ は $4 \overline{)580}$ とも書きます。この
 計算はつぎのようにします。

$$\begin{array}{r} 145 \\ 4 \overline{)580} \\ \underline{4} \\ 18 \\ \underline{16} \\ 20 \\ \underline{20} \\ 0 \end{array}$$

(1) 百の位の 5 を 4 でわって、
 答 1 を 5 の上に書いて、あま
 り 1 をだす。

(2) 十の位の 8 を下におろして
 18 とする。

(3) 18 を 4 でわって、答の 4 を
 8 の上に書いて、あまりの 2 をだす。

(4) 一の位の 0 を下におろして、20 とする。

(5) 20 を 4 でわって 答の 5 を 0 の上に書く。

あまりは 0 となって、わりきれたことになる。

(6) 答は 145 である。

$4 \overline{)580}$ の計算は、右
 のようにかんたんにすること
 もできます。

	145
4	$\overline{)580}$
	12

どのようにしたらよいか、

わたくしたちも考えてみましょう。

つぎの わり算 をしましょう。

$2 \overline{)442} \quad 3 \overline{)639} \quad 4 \overline{)488} \quad 6 \overline{)678}$

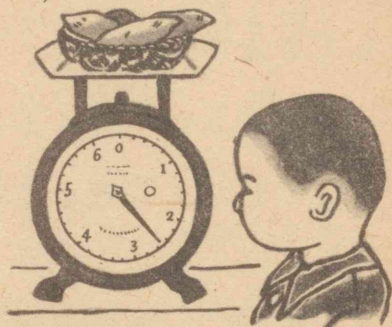
$7 \overline{)854} \quad 8 \overline{)896} \quad 5 \overline{)675} \quad 4 \overline{)624}$

$3 \overline{)795} \quad 6 \overline{)870} \quad 7 \overline{)945} \quad 8 \overline{)992}$

$9 \overline{)378} \quad 7 \overline{)588} \quad 6 \overline{)276} \quad 5 \overline{)470}$

$8 \overline{)696} \quad 4 \overline{)196} \quad 7 \overline{)455} \quad 8 \overline{)776}$

まさお君のほった一かぶには、いもが大きいもの小さいもの合わせて6つで、全部の重さをはかったら、1 kgと350 gありました。



まさお君も京子さんと同じように、一つのいもの重さは何グラムぐらいになるかをしらべています。

1 kgと350 g はグラム単位 にしていうと、1350 gになります。

1350 ÷ 6 この計算のしかたはこれまでにあったしかたと同じにすればいいと、まさお君は考えました。

右の計算を見て、わたくしたちも考えてみましょう。

225	225
6 $\overline{)1350}$	6 $\overline{)1130}$
12	13
15	
12	
30	
30	答 225 g

(1) つぎのわり算をしましょう。

$$2 \overline{)1438} \quad 4 \overline{)2616} \quad 6 \overline{)3252} \quad 3 \overline{)1644}$$

$$5 \overline{)2745} \quad 7 \overline{)2254} \quad 8 \overline{)4344} \quad 9 \overline{)5814}$$

$$6 \overline{)4704} \quad 9 \overline{)4212} \quad 7 \overline{)4732} \quad 8 \overline{)3904}$$

$$5 \overline{)5725} \quad 7 \overline{)7861} \quad 4 \overline{)5376} \quad 6 \overline{)8268}$$

(2) つぎのわり算をしましょう。

$$4 \overline{)76} \quad 9 \overline{)396} \quad 6 \overline{)732} \quad 8 \overline{)4216}$$

$$3 \overline{)261} \quad 5 \overline{)605} \quad 7 \overline{)8106} \quad 6 \overline{)2814}$$

$$9 \overline{)486} \quad 8 \overline{)7104} \quad 6 \overline{)8268} \quad 4 \overline{)3440}$$

$$7 \overline{)6153} \quad 9 \overline{)8631} \quad 8 \overline{)5344} \quad 6 \overline{)2736}$$



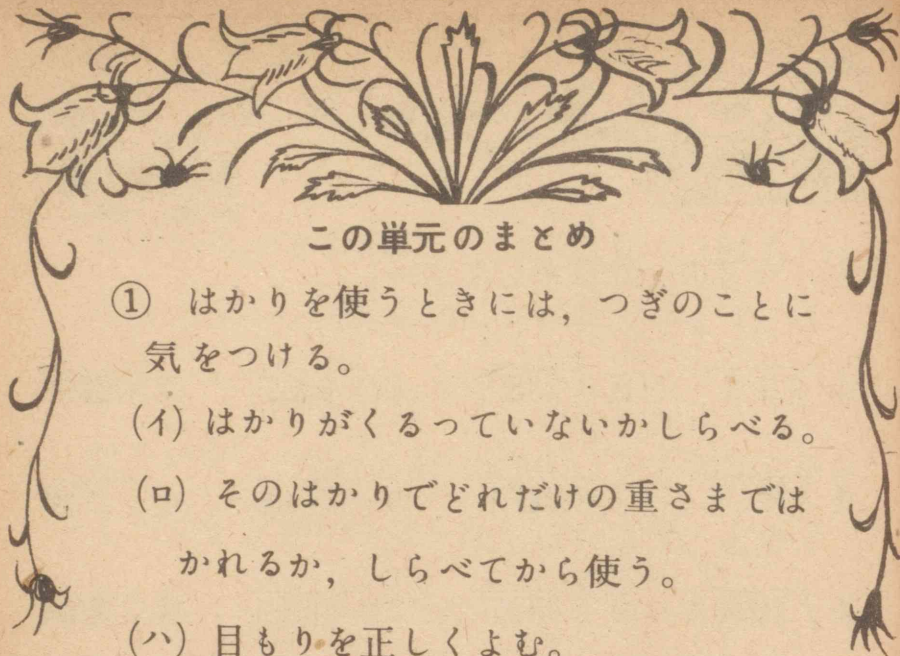
練習

- (1) はじめ君の学校の四年生はみんなて184人いるそうです。これが4組に分かれています。1組何人ずつになっているでしょう。
- (2) 46人が6つのはんに分かれて、こうたいにきょうしつのもうじとうばんをしています。どのはんの人数も だいたい同じになっています。何人ずつのはんが、それぞれいくつつあるでしょう。
- (3) かず子さんは算数のテストで、96点、92点、85点をとりました。ならして1回になん点とったことになるでしょう。
- (4) まさお君は9月に137円、10月に95円、11月には125円ちよきんをしました。一か月にいくらずつちよきんをしていることになるでしょう。
- (5) はる子さんの学校には生とが、みんなて1032人いるそうです。一つの学年にだいたい 何人いることになるでしょう。



テスト

- (1) つぎの 計算をしなさい。
- $4 \sqrt{92}$ $5 \sqrt{265}$ $3 \sqrt{1425}$ $2 \sqrt{2798}$
- $8 \sqrt{9216}$ $7 \sqrt{6426}$ $9 \sqrt{8766}$ $6 \sqrt{2748}$
- $3 \sqrt{2691}$ $9 \sqrt{7641}$ $7 \sqrt{3955}$ $8 \sqrt{9704}$
- (2) つぎの 計算をしなさい。答をたしかめなさい。
- $2 \sqrt{17}$ $3 \sqrt{26}$ $6 \sqrt{45}$ $4 \sqrt{27}$
- $8 \sqrt{47}$ $5 \sqrt{32}$ $7 \sqrt{52}$ $9 \sqrt{89}$
- (3) あきら君は友だちと山へきのことりにいきました。6人で、きのこを40見つけました。あとでおなじ数ずつ、分けることにしました。1人はいくつつになったでしょう。



この単元のまとめ

- ① はかりを使うときには、つぎのことに気をつける。
 - (イ) はかりがくるっていないかしらべる。
 - (ロ) そのはかりでどれだけの重さまではかれるか、しらべてから使う。
 - (ハ) 目もりを正しくよむ。
- (ニ) はかる前に、はかるもののおよその重さのけんとうをつけるようにする。
- ② $1\text{ kg} = 1000\text{ g}$
- ③ $26 \div 4 = 6 \dots\dots 2$ は「26わる4は6あまり2」とよむ。
- ④ わった答にわった数をかけて、それにあまりの数をたせば、はじめのわられた数になる。
- ⑤ 三けたや四けたの数を

46	543
$6 \overline{) 276}$	$8 \overline{) 4344}$
3	32

 右のように、二けたの数を一けたの数でわるのと 同じ考え方です。

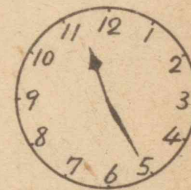
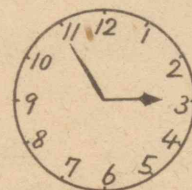
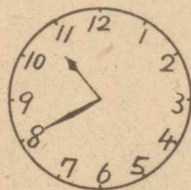


テスト (一)

(1) つぎの かけ算をしましょう。

$\begin{array}{r} 39 \\ \cdot \\ 26 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 48 \\ \cdot \\ 27 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 35 \\ \cdot \\ 68 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 92 \\ \cdot \\ 15 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 54 \\ \cdot \\ 27 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 29 \\ \cdot \\ 16 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 41 \\ \cdot \\ 96 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 56 \\ \cdot \\ 37 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 23 \\ \cdot \\ 249 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 36 \\ \cdot \\ 171 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 67 \\ \cdot \\ 273 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 29 \\ \cdot \\ 718 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 45 \\ \cdot \\ 182 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 45 \\ \cdot \\ 332 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 82 \\ \cdot \\ 546 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 94 \\ \cdot \\ 787 \\ \hline \end{array}$

(2) なん時ですか。



(3) つぎの の中にちょうどよい数をいれなさい。

(4) まさお君たちは半径 8 m の円を運動場にかきました。この円の直径はいくらあるでしょう。



テスト (二)

(1) つぎの 計算をしなさい。

16.8	2.68	24.69	19.24
29.6	5.43	32.84	22.34
+ 2.34	+ 1.26	+ 6.39	+16.89

9.2	46.3	41.3	56.04
- 6.81	-29.46	-30.29	-29.38

3.46	2.46	5.28	55.68
19.04	19.88	37.04	4.07
+ 2.85	+ 5.69	+ 9.86	+19.18

2.43	51.08	32.4	54.06
- 1.96	-13.49	-11.87	-29.17

(2) つぎの かけ算をしなさい。

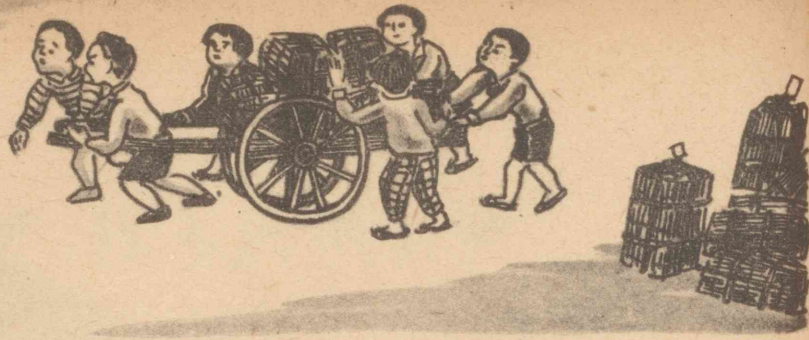
635	539	498	989	537
× 4	× 7	× 6	× 9	× 6

739	592	746	829	549
× 5	× 8	× 6	× 7	× 3

165	235	592	724	269
× 6	× 8	× 9	× 3	× 5

Ⅷ 年のくれ





— 炭はこび

12月の声をきくと急に寒くなります。のぼる君たちの学校では、12月1日からどの教室にも火ばちをいれて、炭をおこしておへやをあたためることになっています。

今日は、のぼる君たちの組が炭はこびをすることになりました。

炭をとりにいくと、配給所の前には炭俵が山のようにつんでありました。

のぼる君が数えてみると、125俵ありました。

のぼる君たちは、かくはんごとにわかれて、それぞれ、車につんで、炭俵を学校まではこぶことになりました。はんの数は、8はんあります。

一つのはんで、何俵はこべばよいでしょう。

$$125 \div 8$$

のぼる君は前にならったようにして、すぐ計算してみました。

計算のしかたはよくわかりましたが、答は15となって、あまりが5となりました。

$\begin{array}{r} 8 \overline{) 125} \\ \underline{8} \\ 45 \\ \underline{40} \\ 5 \end{array}$

このあまりをどうしたらいいか、考えてみました。

$125 \div 8 = 15 \dots\dots 5$	$\begin{array}{r} 15 \dots\dots 5 \\ 8 \overline{) 125} \\ \underline{8} \\ 45 \\ \underline{40} \\ 5 \end{array}$
--------------------------------	--

上のようを書いてから、先生にお見せしました。

先生は「よく考えられましたね。」とほめてくださいました。

答のためしかたは、二けたの数を一けたの数でわって、あまりのあるときと同じようにしてたしかめられます。

これでのぼる君たちは、一つのはんがおよそ15俵はこべばよいことがわかりました。

「125 俵の炭は、重さでいうと 1875kgあることになるよ。」

と、先生がおっしゃっていました。

ずいぶん重いものだと、のぼる君はかんしんしてしまいました。でも大ぜいで力をあわせてはこべば、わけなくはこんでしまうことができます。

のぼる君は、一つのはんで何キログラムぐらいはこんだかをしらべてみました。

$$1875 \div 8$$

$\begin{array}{r} 234 \dots\dots 3 \\ 8 \overline{) 1875} \\ \underline{16} \\ 27 \\ \underline{24} \\ 35 \\ \underline{32} \\ 3 \end{array}$

答は234とあまりが3

となりました。

この計算のしかたでいいでしょうか。わたくしたちも考えてみましょう。

これで、一つのはんがおよそ234 kgの炭をはこんだことがわかりました。

(1) つぎの計算をしましょう。

$$4 \overline{) 375} \quad 6 \overline{) 747} \quad 5 \overline{) 432} \quad 3 \overline{) 145}$$

$$7 \overline{) 672} \quad 8 \overline{) 743} \quad 6 \overline{) 524} \quad 9 \overline{) 265}$$

$$2 \overline{) 1379} \quad 4 \overline{) 2653} \quad 3 \overline{) 1727} \quad 5 \overline{) 3649}$$

$$6 \overline{) 3257} \quad 8 \overline{) 4390} \quad 9 \overline{) 2462} \quad 7 \overline{) 2432}$$

(2) つぎの計算をしましょう。 答をたしかめましょう。

$$5 \overline{) 374} \quad 6 \overline{) 975} \quad 4 \overline{) 346} \quad 3 \overline{) 269}$$

$$7 \overline{) 521} \quad 9 \overline{) 8710} \quad 8 \overline{) 634} \quad 6 \overline{) 470}$$

$$4 \overline{) 1963} \quad 7 \overline{) 3419} \quad 8 \overline{) 4835} \quad 9 \overline{) 2460}$$



二 買い物

かず子さんは、おねえさんと一っしょに買い物にきました。

はじめに、せとものやさんで、ちやわんとゆのみを買いました。



おねえさんは、27円のちやわんを二つと、43円のゆのみを一つ買いました。

「おいくらですか。」

と、おねえさんがきくと、店の人は、

「はい、ありがとうございます。ええと、97円いただきます。」

と、すぐ返事をしました。

かず子さんは、店の人の計算の早いのにはびっくりしてしまいました。

あまりふしぎなので、おねえさんにきいてみると、おねえさんは、つぎのようにせつめいしてく

ださいました。

「27円が二つと、43円ですから、

$27円 + 27円 + 43円$ でもいいし、

$27円 \times 2$ の答に 43円をたしてもいいわけですね。

この二つのしかたは、どちらもおそくなります。店の人は、もっと早い計算をしたのでしょう。それは、

$27円 + 27円 + 43円$ のかわりに

$27円 + 43円 + 27円$ として、たし算のじゅんじょをかえて、計算すると、答を早く出すことができます。

このように、たくさんの数をよせるときには、じゅんじょをとりかえても、答はかわりないのです。」

かず子さんは、このお話をととてもおもしろいと思いました。

わたくしたちもよくわけを考えてみましょう。

つぎの計算で、よせるじゅんじょをいろいろかえて答をだしてみましよう。

$$19 + 58 + 21 \qquad 46 + 87 + 213$$

$$98 + 26 + 74 \qquad 275 + 329 + 225$$

$$80 + 172 + 420 \qquad 9 + 175 + 991$$

ちやわん	54円
ゆのみ	43円
おちや	120円
みかん	265円

左の表は、買い物をしてきた物の名まえと、そのねだんです。

おねえさんは、うちをでるとき、ちょうど

500円もってでたそうです。

お金のかんじょうをまちがえないかどうか、ためそうとしています。

かず子さんは、つぎのようにしてためしてみました。

$$500 \text{ 円} - 54 \text{ 円} - 43 \text{ 円} - 120 \text{ 円} - 265 \text{ 円}$$

「いくらのおつていけばいいでしょうね。」

と、おねえさんにいわれましたが、かず子さんはなかなか答がでません。しばらくしてから、

「18円ですね。」

と、のこりのお金がわかりました。

おねえさんが、かず子さんの計算を ごらんになって、

「あるかずから、いくつかの 数をつぎつぎにひくときには、ひく数を ぜんぶよせて、それを、はじめの数から ひいてもいいのですよ。」と、おしえてくださいました。

かず子さんは、さっそく、このしかたで 計算をしてみました。

$$54 \text{ 円} + 43 \text{ 円} + 120 \text{ 円} + 265 \text{ 円} = 482 \text{ 円}$$

$$500 \text{ 円} - 482 \text{ 円} = 18 \text{ 円}$$

このしかたの方がまちがえなくて、早くできると思いました。

わたくしたちも、このしかたで 計算 してみましよう。

つぎの ひき算を、左からじゅんにけいさんし
ましょう。

つぎに、ひくかずをぜんぶよせたものを、はじ
めのかずからひいてみましょう。

$$100 - 5 - 13 - 9 - 26 - 38 - 7$$

$$350 - 42 - 16 - 59 - 37 - 28$$

$$1500 - 120 - 460 - 90 - 250 - 170$$

$$740 - 147 - 89 - 75 - 269 - 174$$

$$2600 - 150 - 270 - 1230 - 560 - 80$$

かず子さんが、みかんばこをあけてみるとみか
んは43はっていました。

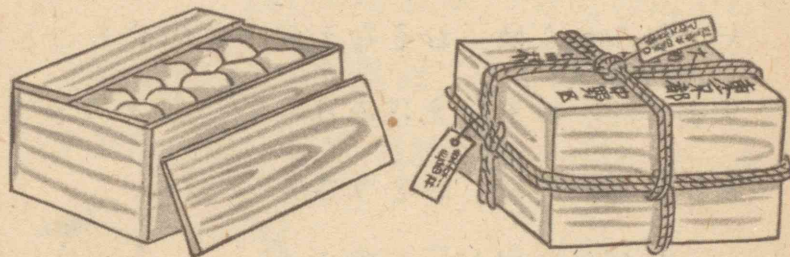
おじさんのうちからおくっていたみかん
が、まだ18のこっています。

●みかんはあわせていくつあるでしょう。

夕方おかえりになったおとうさんが、大きなみ
かんを五つくださいました。

●みかんはみんなでいくつになったでしょう。

●この二つの よせ算から、よせ算に 二つの場
合があることを考えましょう。

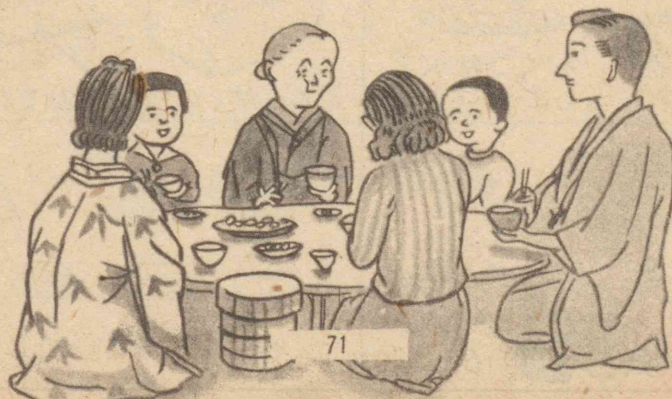


おじさんのうちからいただいたみかんばこには、
51みかんがはっていました。いま18しかあり
ませんでした。

●いくつたべてしまったでしょう。

ゆうはんがすんでから、みんなでみかんをたべ
ました。一つずつ6人がたべました。

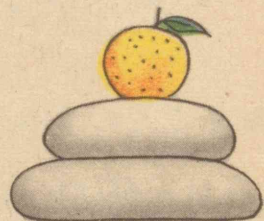
●まだみかんはいくつのこっているでしょう。



●かず子さんたちが店で買ったみかんと、おじさんからおくっていただいたみかんと、どちらがいくつ多かったでしょう。

大きなみかんは、おそなえの上のにせることになりました。おそなえはみんな7組あります。

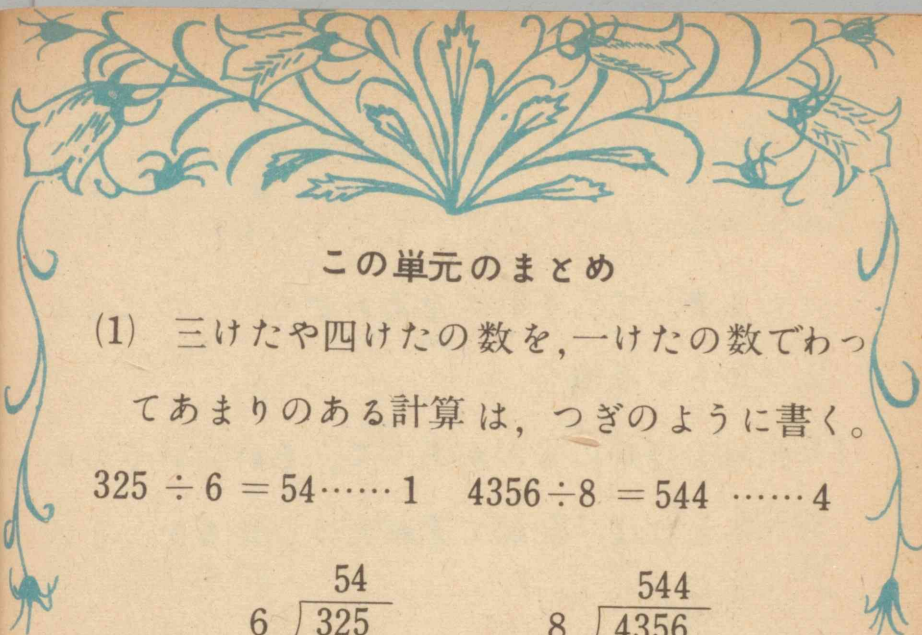
大きなみかんは、おとうさんからいただいたのが三つのこっています。



●まだ、あといくつたりないでしょう。

これまでの四つのひき算から、ひき算に4つの場合があることを考えましょう。

<p>51こ</p> <p>18こ</p> <p>いくつたべてしまったでしょう</p>	<p>43こ</p> <p>51こ</p> <p>どちらがいくつおおいでしょう</p>
<p>66こ</p> <p>いくつこのているでしょう</p>	<p>いくつたりないでしょう</p>



この単元のまとめ

(1) 三けたや四けたの数を、一けたの数でわつてあまりのある計算は、つぎのように書く。

$$325 \div 6 = 54 \cdots \cdots 1 \quad 4356 \div 8 = 544 \cdots \cdots 4$$

$$\begin{array}{r} 54 \\ 6 \overline{) 325} \\ \underline{30} \\ 25 \\ \underline{24} \\ 1 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 544 \\ 8 \overline{) 4356} \\ \underline{40} \\ 35 \\ \underline{32} \\ 36 \\ \underline{32} \\ 4 \end{array}$$

(2) いくつかの数をよせるときには、よせる数のじゅんじょをかえても答はかわらない。

(3) ある数からじゅんにいくつかの数をひくときには、ひく数をぜんぶよせて、その答を、はじめのある数からひいてもよい。

(4) よせ算には 二つの場合がある。

(イ) いくつかのものが、むこうにも、こちらにもあって、それらをあわせていくつになるかという場合。

(ロ) いくつかのものがあって、それにいくつかふえれば 全部でどれだけになるか、という場合。

(5) ひき算には 四つの場合がある。

(イ) 二つの 数があって、どちらがどれだけ多いかという場合。

(ロ) 全体と、その一部の数がわかって、あとにどれだけのコっているかという場合。

(ハ) 全体と、のこりがわかっていて、いくつなくなつたかという場合。

(ニ) 全体の数と、いまある数がわかっていて、あといくつたりないかという場合。



(1) つぎの 計算 をしなさい。

$$\begin{array}{r} 37.4 \\ 1.96 \\ +106.2 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 51.09 \\ 2.72 \\ +36.48 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 91.74 \\ 3.56 \\ +107.08 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} -37.46 \\ 12.09 \\ + 7.87 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 9.06 \\ - 3.98 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 10.01 \\ - 3.17 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 24.3 \\ -19.64 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 54.61 \\ -29.37 \\ \hline \end{array}$$

(2) つぎの 計算 をしなさい。

$$\begin{array}{r} 85 \\ \times 79 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 32 \\ \times 46 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 7 \\ \times 327 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 829 \\ \times 6 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 59 \\ \times 38 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 976 \\ \times 4 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 432 \\ \times 7 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 69 \\ \times 84 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 8 \\ \times 193 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 3 \\ \times 734 \\ \hline \end{array}$$

$$4 \overline{)356} \quad 8 \overline{)704} \quad 7 \overline{)252} \quad 6 \overline{)474}$$

$$9 \overline{)5301} \quad 5 \overline{)1375} \quad 8 \overline{)2944} \quad 7 \overline{)4655}$$

(3) つぎの □ の中にちょうどよい数をいれなさい。

$$1 \text{ km} = \square \text{ m}$$

$$1 \text{ kg} = \square \text{ g}$$

$$1 \text{ cm} = \square \text{ mm}$$

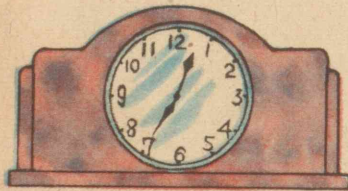
テ ス ト (二)

- (1) 1を□, .1を○, .01を×として
6.39を書きなさい。
- (2) 半径5 cmの円の直径は何センチメートルあり
ますか。

(3)
$$\begin{array}{r} 34.4 \\ + 1.98 \\ \hline \end{array}$$

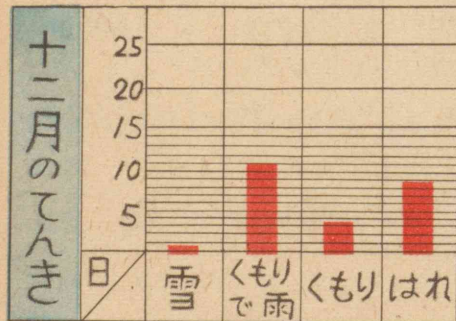
(4)
$$\begin{array}{r} 101.02 \\ - 9.64 \\ \hline \end{array}$$

- (5) なん時なん分ですか。(6)



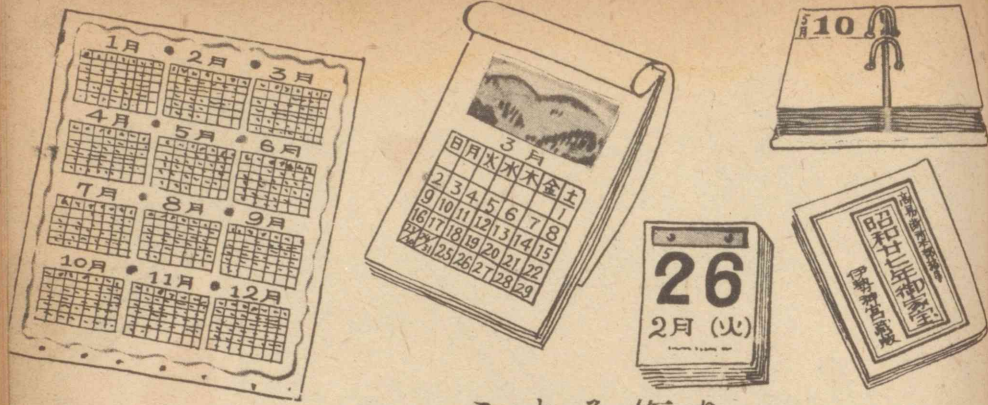
(6)
$$\begin{array}{r} 438 \\ \times 76 \\ \hline \end{array}$$

- (7) はれの日は、なん日あったでしょう。



(8)
$$9 \overline{)8802}$$





一 こよみ作り

1 いろいろなこよみ

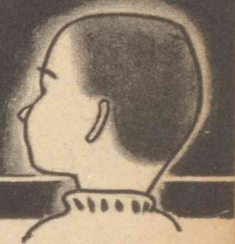
新しい年をむかえました。あきら君たちは、今年のこよみを作ることにしました。どんなこよみを作るかは答はんでそうだんしてくふうすることにしました。

こよみに書きこむことにはどんなことがあるでしょう。

こよみを作るのには、どんなことをしらべておく方がいいでしょう。

あきら君たちは、こよみを作るのにひつようなことをしらべて、黒板にまとめて書きました。

1年は365日 1週間は7日
 大の月 31日
 1月 3月 5月 7月 8月 10月 12月
 小の月
 ふつうの月 30日
 4月 6月 9月 11月
 2月 28日



ひでお君が

「今年は2月が29日で 一年は 366日だが、来年は 365日だね」といいました。それはどんなことでしょう。

このほかに、あきら君たちは、国民の祝^{しゅく}じつや一年間の主な行事について、しらべてみました。

私たちもしらべましょう。

来年はきげん何年ですか。昭和何年ですか。

あきら君のはんでは、ひと月が1まいのこよみ(カレンダー)を作ることになりました。ちよ子

さんのはんは、日めくりこよみ、ひでお君のはんでは一年が一まいのこよみ、きよし君のはんとかず子さんのはんとでは、共どうして一週間一まいで、まい日のできごとを書きこむこよみを作ることにしたそうです。それぞれのはんごとに、作る紙やいろいろの道具を用意しています。

どんな用意をしたらいいでしょ。

紙は、それぞれのはんで何まい用意したらいいでしょ。また紙の形や大きさはどんなのがいいでしょう。

2 カレンダー作り

あきら君のはんは、ひと月が1まいのこよみ(カレンダー)を作ります。そうだんしてつぎのようにきめました。

紙の大きさ 画用紙一まい

紙の数 裏表をつかって 六まい

日の書方

1. 日曜日は赤、土曜日は青、ほかの日は黒で書く。祝日は、赤で旗をつける。

2. 日を書く所を、たてよこの線で区切る。

その他

1. 上の方に、その月に関係のある絵をかく。

2. はじめに学校の授業時間表を入れる。

3. ふちにもようを書いてかざる。

紙の大きさから考えて、ちょうどまん中から下に日を書くことにしました。半分から下の大きさは、たてが15cm、よこが21cmと1mmありました。

あきら君が、

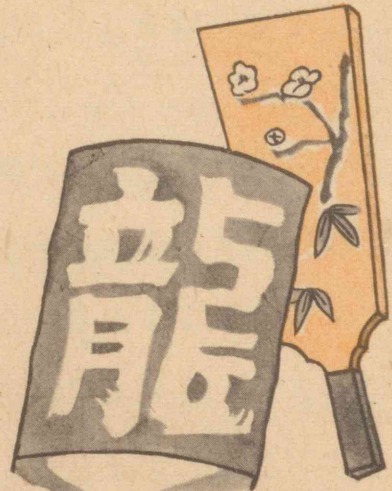
「よこのますは7ついるから、一つを2cm5mmにすると、3cm6mmあまる。だからその半分の1cm8mmずつ左も右もあけたらどうだろう。

たては下をやはり1cm8mmあけて、2cm5mmずつ6つのますをとればいいね。」といいました。

みんなは、それにさんせいして、こよみを作りはじめました。

1952年 ㊦ 一月 昭和27年

月	火	水	木	金	土



日	月	火	水	木	金	土
	☺	☸ 元日	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	☸ 15 成人の日	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	☺	☺

3 長方形・正方形

はんの人数は8人なので、2人ずつが組になって、1組が3か月分ずつ作りました。左の絵は、あきら君の作った一月のこよみです。

全部のはんができてから、みんなくらべて見ました。それぞれのこよみによい所や足りない所があります。

日めくりこよみは、どんな所が便利で、どんなことが不便ですか。

ほかのこよみについても考えてみましょう。

左の図の日の書いてある小さな四角は、角が直角になっていて、まわりの線は四本とも同じ長さです。このような形を正方形といいます。

正方形のものを見つけなさい。

また、全体の太い線の四角は角が直角ですが、4本の線は向いあっている二本ずつの長さが同じで、となりどうしはちがいます。このような形を長方形といいます。

長方形のものを見つけなさい。

(1) 正方形と長方形は、どんなところが同じで、どんなところがちがいますか。

(2) つぎの形を書いてごらんなさい。

一つの線の長さが5 cmの正方形

一つの線の長さが3 cmの正方形

たて5 cm, よこ3 cm の長方形

たて4 cm, よこ7 cm の長方形

(3) たて5 cm, よこ8 cmの長方形を書きなさい。

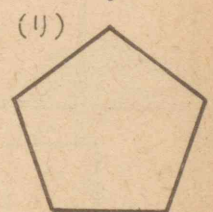
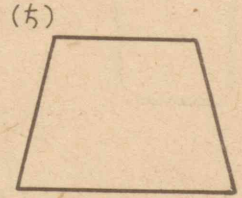
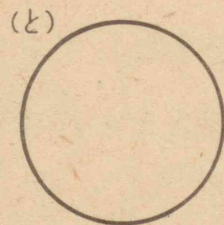
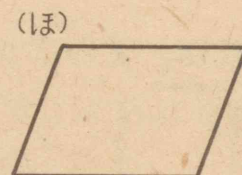
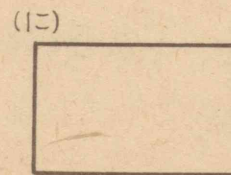
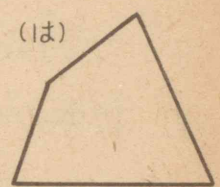
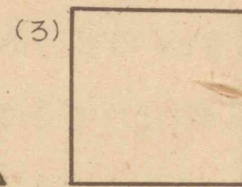
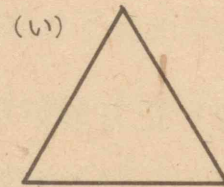
この長方形のたてをそのままにして、正方形にしてください。

(4) 正方形, 長方形をまわしながら, その形についてしらべてごらんなさい。



練習

(1) つぎのいろいろな形の中から、正方形や長方形を見つけてなさい。そのほかの形でも、名まえを知っているものがあつたらいいなさい。



(2) 上の形の(ろ)を(に)にするにはどうしたらいいでしょう。(へ)を(ろ)にするには、どうしますか。

(ほ)を(に)にするには、どうしますか。

(ろ)を(ほ)にするにはどうしますか。



テ ス ト

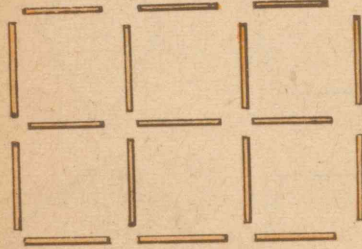
(1) 三角じょうぎとものさしをつかって、つぎの形を正しく書きなさい。

1つの線の長さが6cmの正方形

たて14cm 横9cmの長方形

(2) 17本の小さいのぼうで小さい正方形が6こできます。小さいのぼうを4本とって、正方形を

4こにするには、どののぼうを、とればいいでしょ



う。

5本とって、正方形

を3こにするには、

どののぼうをとればいいで

しょう。

図の中には正方形はいく

つあるでしょう。長方形

はいくつあるでしょう。いろいろな形の長方形

を考えなさい。

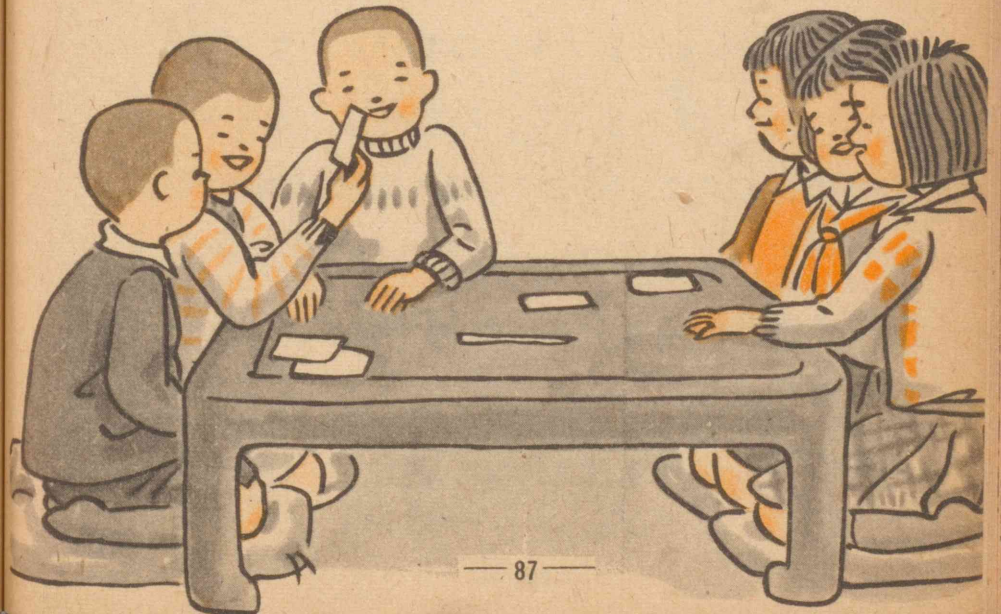
二 新年子ども会

きょうは成人の日で、学校はおやすみです。

ごご1時にあきら君の家にお友だちがあつまつて新年子供会をひらくことにしました。あつまつた人は男の子はあきら君のほかにひでお君と、清君の3人で、女の子はちよ子さんと、よし子さん、かず子さんの3人です。

1 20のとびら

はじめに男子ぐみと女子ぐみにわかれて「20のとびら」をしてあそびました。



テーブルのまん中に答を書いたカードをふせておきます。男子ぐみの出すもんだいはすぐあたってしまいますが女子ぐみはもんだいがむずかしいので、なかなかあたりません。

そこへあきら君のおかあさんが「ごほうびをあげますからみんなでなかよくわけなさい。」といって

みかん 12 こりんご 3こ
キャラメル 6はこ ようかん 2本

をくださいました。みんなは大よろこびで、男子ぐみと女子ぐみで、半分ずつにわけました。

みかん 12 この半分は 6こ
キャラメル 6はこの半分は 3はこ
ようかん 2本の半分は 1本
りんご 3この半分は はじめに

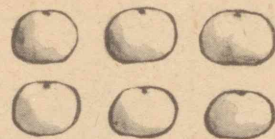
1つずつわけて、のこりの1つはまん中から二つに切って、半分ずつにわけました。

1の半分のことを $\frac{1}{2}$ と書いて「二分の一」とよみます。

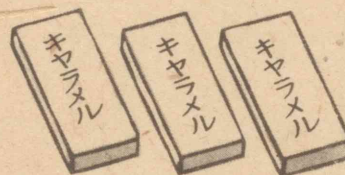
$\frac{1}{2}$ の書き方は ① \square ② $\frac{\square}{2}$ ③ $\frac{1}{2}$ です。

男子ぐみ

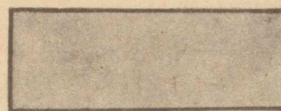
みかん



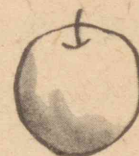
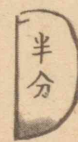
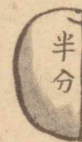
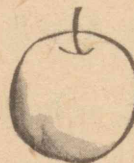
キャラメル



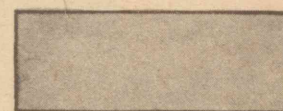
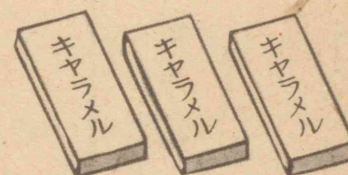
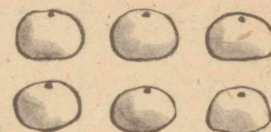
ようかん



りんご



女子ぐみ



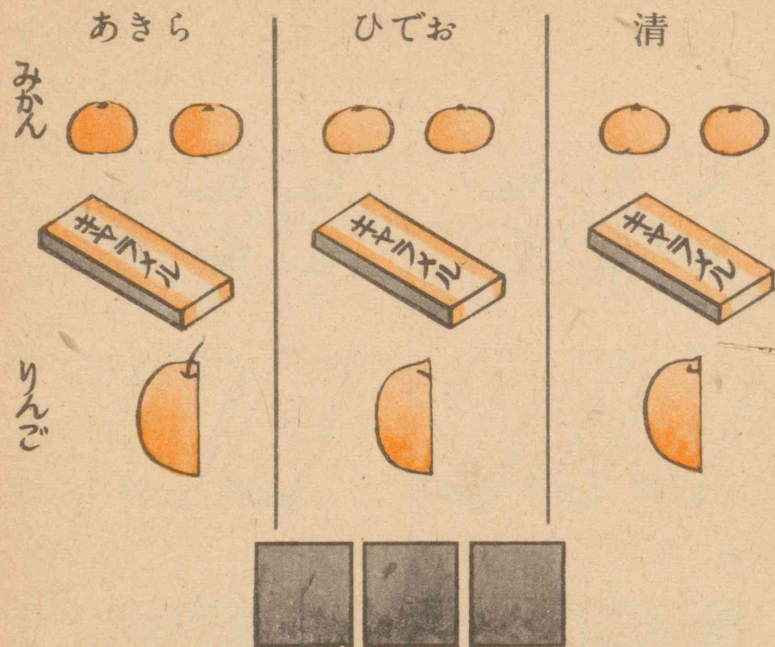
12の半分が 6ですから 6が 2つで 12

4の半分が 2ですから 2が 2つで 4

2の半分が 1ですから 1が 2つで 2

1の半分が $\frac{1}{2}$ ですから $\frac{1}{2}$ が 2つで 1

になります。



つぎに、男子ぐみがくだものやおかしを3人でわけることにしました。

みかん 6こを 3人でわけると 1人が2こ、キャラメル3はこを 3人でわけると 1人が1はこ、りんご1こと $\frac{1}{2}$ を3人でわけると 1人が $\frac{1}{2}$ こ、ようかん1本を 3人でわけるには1本を同じように3つに切ります。

1を同じように3つにわけた1つを $\frac{1}{3}$ と書いて「三分の一」とよみます。

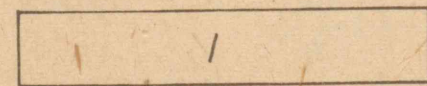
1を3つにわけた1つが $\frac{1}{3}$ ですから $\frac{1}{3}$ が3つで1になります。

1を3つにわけた1つが $\frac{1}{3}$ で、その $\frac{1}{3}$ が2つのことを $\frac{2}{3}$ と書いて「三分の二」と読みます。

女子ぐみが3人でようかんをわけようとしている所へ、あきら君の妹のきよちゃんが来ましたので、きよちゃんの分もいれて、4人でわけることにしました。

1を同じように4つにわけるには、はじめに、 $\frac{1}{2}$ にわけて、つぎに $\frac{1}{2}$ をまた二つにわけます。

1を同じように4つにわけた1つを $\frac{1}{4}$ と書いて、「四分の一」と読みます。



1を4つにわけた1つが $\frac{1}{4}$ ですから $\frac{1}{4}$ が2つで $\frac{2}{4}$ になります。

○ $\frac{1}{4}$ が3つのことをなんといいますか。

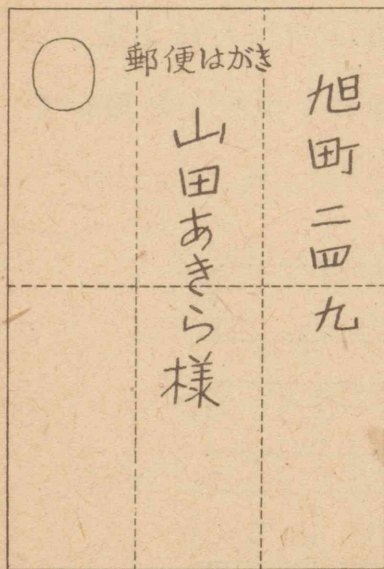
○ $\frac{1}{4}$ が4つではどうなりますか。

$\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{3}$ や $\frac{2}{3}$ のような数を「分数」といいます。

2 すごろく

「20のとびら」のあとで、すごろくをしました。

6人でさいころをふって、どこまで進んだか、はつきりさせるために、めいめいが名ふだを作ることになりました。あきら君が古いはがきを持って来て、

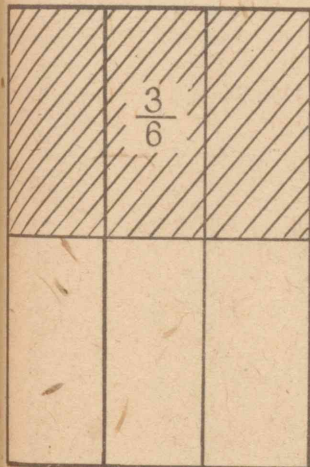
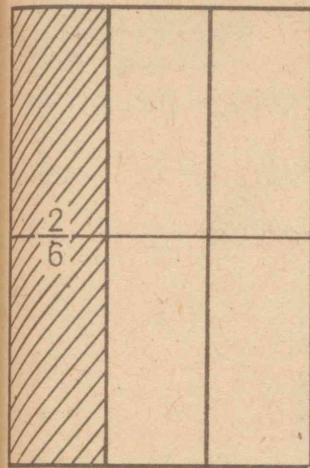


6つに切りました。

はがきのたては14cmよこは9cmです。

あきら君はどのように切ったでしょう。

1を同じように6つにわけた1つを何といいますか。



○ 1を6つにわけた1つが $\frac{1}{6}$ で $\frac{1}{6}$ が2つでは $\frac{2}{6}$ です。

○ $\frac{2}{6}$ は $\frac{1}{3}$ と同じです。

○ $\frac{4}{6}$ は $\frac{1}{6}$ が4つのことです。

○ $\frac{4}{6}$ は何と同じですか。

○ $\frac{1}{6}$ が3つでは $\frac{3}{6}$ です。

○ $\frac{3}{6}$ は $\frac{1}{2}$ と同じです。

○ $\frac{3}{6}$ が2つではどうなりますか。

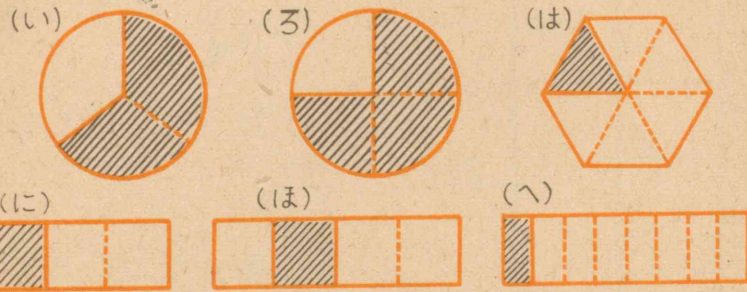
○ $\frac{5}{6}$ と $\frac{2}{3}$ とではどちらが大きいですか。

○ もっとほかの分数についてもしらべてみましょう。

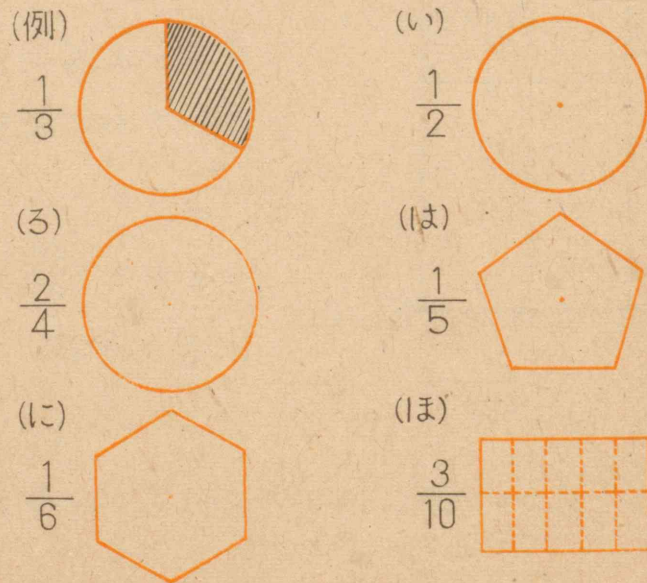


練習

(1) 黒いところは 全体の大きさの、どれだけですか。



(2) 左の分数を右の図に表わしなさい



テスト

(1) $\frac{2}{3}$ は、 $\frac{1}{3}$ がいくつあつまったものですか。

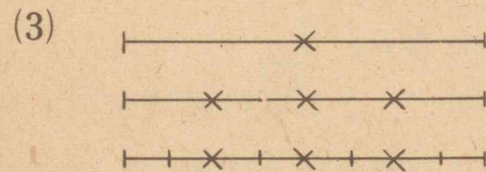
$\frac{3}{5}$ は、 $\frac{1}{5}$ がいくつあつまったものですか。

$\frac{3}{8}$ は、何がいくつあつまったものですか。

(2) 大きい方の分数を○でかこみなさい。

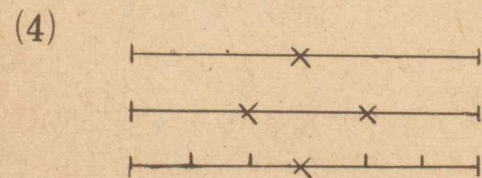
$(\frac{1}{2}, \frac{1}{3})$ $(\frac{1}{3}, \frac{2}{3})$ $(\frac{1}{3}, \frac{1}{4})$

$(\frac{1}{4}, \frac{1}{2})$ $(\frac{1}{8}, \frac{1}{6})$ $(\frac{2}{3}, \frac{2}{4})$



$\frac{1}{8}$ が4つではいくらになりますか。

$\frac{1}{8}$ が8つではどうでしょう。



$\frac{1}{6}$ が2つではいくらになりますか。

$\frac{1}{6}$ が3つではいくらでしょう。



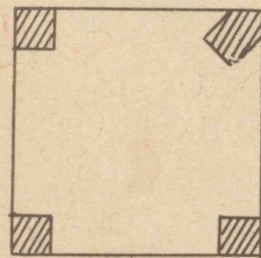
この単元のまとめ

- (1) 一年は365日ある。このときは2月は28日である。
4年ごとに一年は366日となる。このときは2月は29日となる。
- (2) 大の月は1月, 3月, 5月, 7月, 8月, 10月, 12月で 31日ある。
小の月は2月, 4月, 6月, 9月, 11月で, 2月のほかは30日ある。
- (3) 角が4つとも直角で, まわりの線が4本とも同じ長さのものを正方形という。
角が4つとも直角で, まわりの4本の線は, 向いあっている2本ずつの長さが同じで, となりどうしはちがうものを長方形という。
- (4) $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{3}$ や $\frac{2}{3}$ のような数を分数という。
1の半分のことを $\frac{1}{2}$ と書いて「二分の一」とよむ。
1を同じように3つにわけた1つを $\frac{1}{3}$ と書いて「三分の一」とよむ。
 $\frac{2}{3}$ が2つのことを $\frac{2}{3}$ と書いて「三分の二」とよむ。



練習

- (1) ことは、2月は29日あります。1月8日から3月26日まで何日あるでしょう。
- (2) 1年は何週と何日あるでしょう。



やきゅうのコートの一つの線の長さを25mにしました。一かい走ると、何メートル走ったことになりますか。

- (4) つぎの計算をしなさい。

$$\begin{array}{r} 582 \\ \times 9 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 36 \\ \times 78 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 286 \\ \times 45 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 28 \\ \times 408 \\ \hline \end{array}$$

$$5 \overline{)205} \quad 8 \overline{)656} \quad 6 \overline{)2500} \quad 9 \overline{)728}$$

$$36 \times 16 + 36$$

$$459 \times 34 - 459$$

$$217 \div 7 + 19$$

$$128 \div 4 - 32$$

- (5) つぎの□の中へあてはまる数字を入れなさい。

$$\begin{array}{r} \square 4 5 \\ + 3 2 \square \\ \hline 9 6 9 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \square \square 7 \\ - 6 3 \square \\ \hline 3 1 3 \end{array}$$

$$\square \square \div 5 = 9 \dots 4$$

$$\square \square \div 6 = 9 \dots 1$$



テスト

(1) 線でむすびなさい。

はんし	正方形	—	やきゅうのコート
色紙			テニスコート
はがき	長方形		三角じょうぎ
ふろしき			こくばん

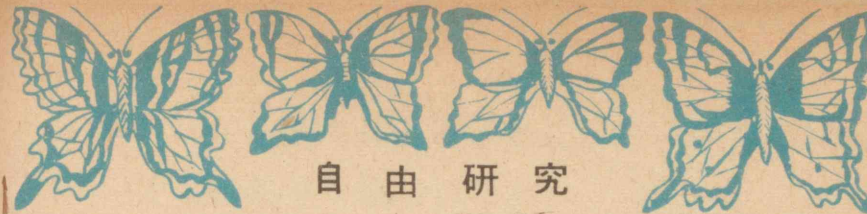
(2) ひとしいものを線でむすびなさい。



(3) あきら君はおとうさんからどうわの本を買っていただきました。毎日全体の $\frac{1}{3}$ ずつ読むことにしました。2日間では何分の何だけ読むことができますか。3日間ではどうでしょう。

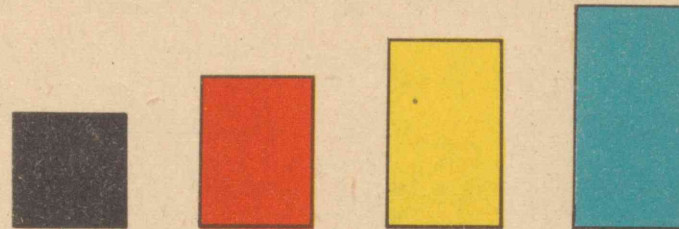
全体の $\frac{1}{3}$ を読むには何日かかるでしょう。

全体の $\frac{2}{3}$ を読むにはどうでしょう。



自由研究

(1) 正方形や長方形のかたちの美しさ



ひでお君は三角じょうぎとものさしを使って、正方形は四つの線がみな同じ長さで、四つの角がみな直角で、たいそう美しい形だと思いました。

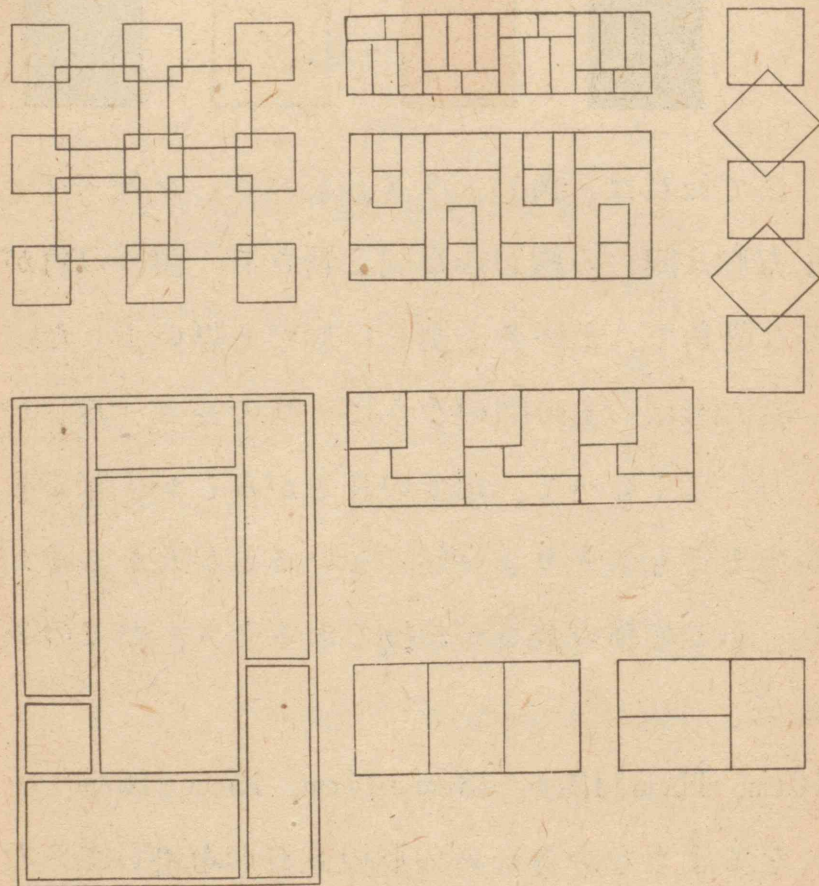
長方形は上の図のように、横の長さ（みじかい方）にくらべて、たての長さがみじかすぎても、長すぎてもあまりよい形でないことがわかりました。そこで横の長さが9cmであるとき、たての長さが

10cm, 11cm, 12cm, 13cm, 14cm, 15cm, 16cm……

になるようないろいろの形の長方形を書いてみたら、14cmのときが、一番かっこうがよいと思いました。

○ はがきのたての長さと横の長さをしらべてみましょう。

○ 正方形や長方形を使ってできた美しいもようの書き方をしらべてみましょう。



○ 私たちもこのようなもようを作ってみましょう。

2 分数や小数のれきし

あきら君は分数や小数がいつごろから使われるようになったかをしらべてみました。

分数は、今から3500年も前に、エジプトのアーメスという人がパピルス（大昔つかわれていた紙）に書いた本の中に使われていることがわかりました。この本は世界中で一番古い算数の本です。けれども $\frac{1}{2}$ や $\frac{2}{3}$ のようなかんたんな書き方がはっ見されたのは今から750年ばかり前のことでそれより前はいろいろめんどろな書き方をしていました。

小数は分数よりもずっと後になってはっ見されました。今から350年ばかり前には、まだ小数点を使って書くあらわし方がわからなかったので、4.56のような小数は

$$4 \overline{)56} \quad \text{や} \quad 4 \odot 5 \textcircled{1} 6 \textcircled{2} \quad \text{や} \quad 4 \overset{1}{5} \overset{2}{6}$$

のように書いていました。

小数点を使って4.56と書くようになったのは今から340年ばかり前のことです。

(3) 2月が28日になったわけ。

かず子さんは、大の月は31日、小の月でも30日あるのに、2月だけは28日しかないので、ふしぎに思ってしまった。

今からちょうど2000年前のローマ（今のイタリアにあった強い国）のシーザーという王さまが新しいこよみを作って、つぎのようになりました。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
31日	30日	31日	30日	31日	30日
7月	8月	9月	10月	11月	12月
31日	30日	31日	30日	31日	30日

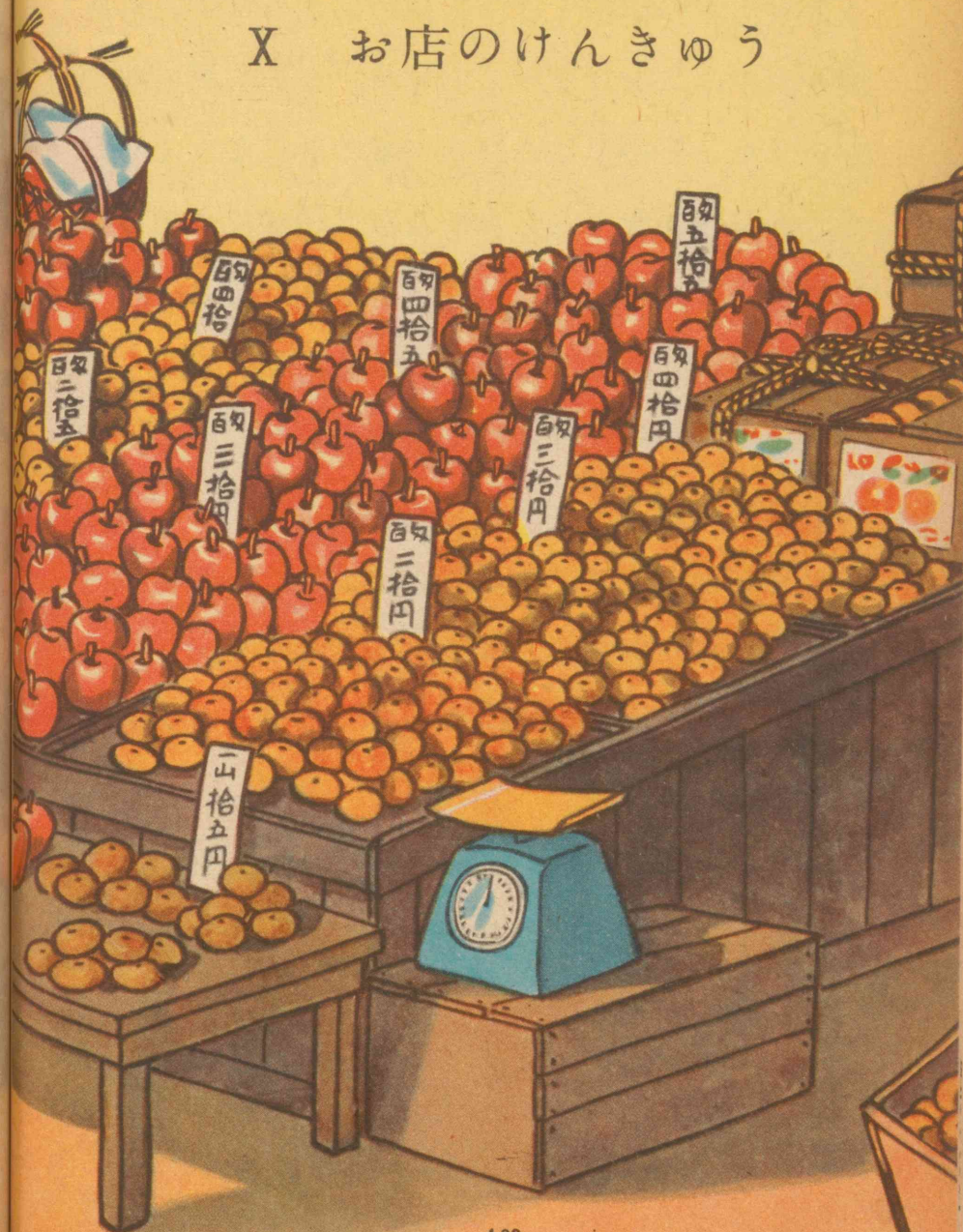
これでは一年が366日になるので、ふつうの年は2月を29日にしました。

それからまもなく、シーザーのつぎの王さまが自分の生れ月の8月が小の月ではこまるといって大の月になおしたのでつぎのようになりました。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
31日	29日	31日	30日	31日	30日
7月	8月	9月	10月	11月	12月
31日	31日	30日	31日	30日	31日

これでは一年が366日になるので、ふつうの年はまた2月から1日ひいて28日にしました。

X お店のけんきゅう



一 お店しらべ

あきら君の学校では、二月の末ごろにてんらん会を することになっています。あきら君の組でもいよいよそのじゅんぴをすることになりました。

どんな作品をてんらんするか、用意する材料などについて、はじめに話をしました。

がよう紙と、あつ紙がいることになりましたので、あきら君が、ぶんぼうぐやへねだんをしらべにいきました。

おなじがよう紙でも、お店によってねだんがちがうことに、あきら君は気がつきました。

学校へかえってから、先生にこのこととお話すると、先生は、

「それはおもしろいことに気がつきましたね。」と、おっしゃって、つぎのようにせつめいしてくださいました。

どこのお店でも、品物とはんやとか、それをせ

いぞうしているところから仕入れてきて、それを大ぜいの人に売っています。



お店の人が、しいれるときのねだんを、げんかといひます。

このげんかよりもいくらか高いねだんをつけてお店の人は、おきやくさんに売るわけです。

おきやくさんに売るときのねだんをていかといひます。

げんかよりいくらか高くつけたぶんが、お店の人の りえき (もうけ) になります。

$$\boxed{\text{げんか}} + \boxed{\text{りえき}} = \boxed{\text{ていか}}$$

- (1) ぶんぼうぐやさんが、ちょうめんを1さつ6円でしいれました。これをていか8円で売ると、りえきはいくらでしょう。
- (2) ぶんぼうぐやさんが、ふてばこを1こ43円で

仕入れました。これにりえきを7円みて売るとすると、ていかはいくらにすればいいでしょう。

げんかは 同じであっても、りえきをどれだけにするかによって、それぞれお店によって 同じ品物でも ていかにちがいがあることになります。

先生のおはなしをきいて、あきら君たちは、いろいろなお店にいて、げんか、ていかなどについてしらべてみることになりました。

かず子さんは、くだものやさんへいきました。くだものやさんには店のさきに、右のようないかひょうがさがっていました。

- (1) 大きなりんご1このげんかは14円だそうです。りえきはいくらでしょう。

りんご	大12	18円
りんご	中12	13円
りんご	小12	7円
みかん	一山	35円

- (2) 中のりんご1このりえきが3円とすると、げんかはいくらでしょう。

- (3) みかん 一山のげんかは28円とすると、35円のていかを3円やすくして売っても、まだいくらのりえきがあるでしょう。

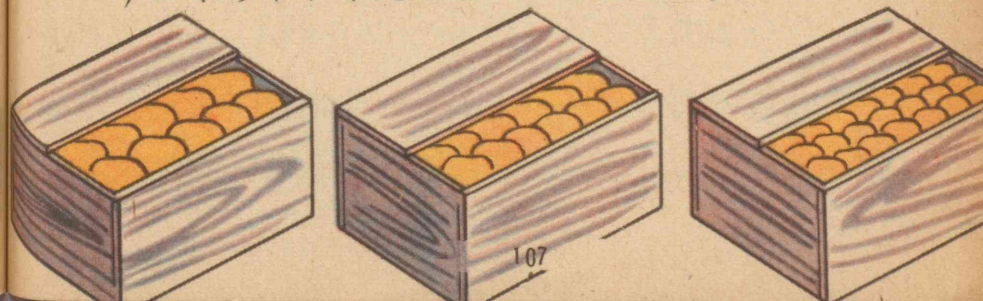
- (4) みかん1はこのげんかとていかはつぎのひょうのようになっているそうです。

みかんのつぼ	げんか	ていか
大	295 円	320 円
中	275 円	300 円
小	255 円	270 円

このひょうからそれぞれのりえきをけいさんしてごらん下さい。

- (5) 大つぼのみかん1はこのていかを10円だけやすくして売りました。りえきはいくらでしょう。

- (6) 小つぼのみかん1はこのりえきを10円だけあるようにして売りたいと思いました。ていかよりいくらやすく売ればいいでしょう。





練習

(1) かんぶつやさんが、たまごを1こ6円で売
れました。これを1こ8円のていかをつけて売
ると、1このりえきはいくらでしょう。

このたまごを50こ売るとりえきはいくらでし
ょう。

(2) 本やさんが、ある本を1さつ100円で売ると、
りえきは20円あるそうです。この本のげんかは
いくらでしょう。

(3) つぎの の中であてはまることばをいれ
なさい。

お店の人がとんやや せいぞうもとから
品物をしいれてくるときのねだんを と
いいます。

お店の人がおきやくさんに品物を売るときの
ねだんを といいます。



二 お店の計かく

みんなで、こんどは、いよいよお店ごっこをす
るしたくをすることになりました。

その方法はつぎのようです。

- ㊦ はんごとに 何やさんをするかをきめる。
- ㊧ はんごとにきめた店の 品物 をつくって
先生のところへもっていく。
- ㊨ くみぜんぶのしなものができたら 先生の
ところへ、品物を仕入れにいく。
- ㊩ 各はんごとに お金をつぎのように作る。

100円さつ.....1まい

10円さつ.....25まい

5円さつ.....20まい

1円さつ.....25まい

50銭さつ.....40まい

10銭さつ.....40まい

5銭さつ.....20まい

⑧ 先生のところから仕入れてきた品物のねだ
んに、もうけを考えて、定価をきめ、定価表
を作る。

⑨ お店のかざりつけをする。

●各はんは、いくらずつのお金で、お店をはじ
めることになりますか。

●おさつのおもてや、うらには、きれいなもよ
うや、ずあんを考えましょう。

●店のかざりつけには、色紙でくさりをつくつ
たりポスターを書いたりしましょう。

みんなは、品物を作って、先生のところへもつ
ていきました。品物は、ねんどや 厚紙あつや、わら
半紙などで、作りました。

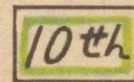
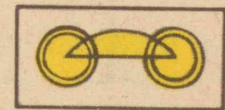
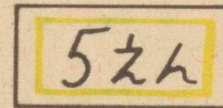
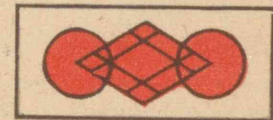
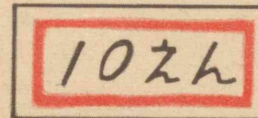
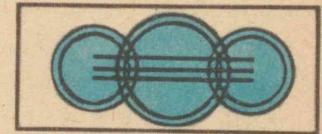
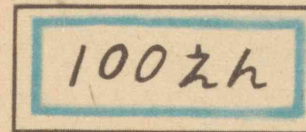
先生はもっていったもの
は、みなノートにひかえ
て、うけとられまし
た。



つぎには、みんなでおさつを 作りました。
そのおさつは、つぎのようでした。

おもて

うら



できた、おさつは、先生のところへもっていつ
て、けんえつのはんをおしてもらいました。

おさができあがったので、先生のところへ、品物を仕入れにいきました。その品物と仕入れねだんは、下の表のとおりです。

品物	仕入れねだん	し入れた数
ノート	1さつ 7 ^円 .20	100 さつ
えんぴつ	1本 2 ^円 .40	5 ダース
けしゴム	1こ 2 ^円 .25	5 ダース
したじき	1まい 20 ^円 .00	40 まい
ふでばこ	1こ 31 ^円 .80	20こ
三角定ぎ	1くみ 16 ^円 .00	20くみ
コンパス	1こ 8 ^円 .00	60こ
のり	1こ 8 ^円 .00	3ダース
色紙	1たば 2 ^円 .15	100 たば

お金は、あとで、せいりをしてから、はらうことになっています。

左の表は、先生が二まいお作りになって一まいをかず子さんたち

にくださいました。

かず子さんたちは、それぞれの定価をいくらにしようかと、考えています。私たちも考えてみましょう。

みんなで、つぎのように定価をきめました。

ノート	8.00	えんぴつ	3.00
けしゴム	2.50	したじき	25.00
ふでばこ	36.00	三角定ぎ	20.00
コンパス	13.00	のり	10.00
色紙	2.50		

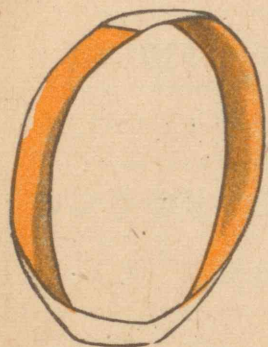
●おのおのの品物一こについて どのくらいいのもうけを、みつもったのでしょうか。

かず子さんは、お客さんがきて、しなものを買ったときに、どこでもすぐに売りねがわかるような表を作っておくとべんりだと思って、つぎのような表をつくりました。

品物 \ 回数	1	2	3	4	5
ノート	8.00	16.00	24.00		
えんぴつ	3.00	6.00	9.00		
色紙・けしゴム	2.50	5.00	7.50		
コンパス	13.00	26.00	39.00		
ふでばこ	36.00	72.00	108.00		

私たちが、かず子さんのような表をくふうして作ってみましょう。

しげる君は、色紙で、店のかざりのくさを作っているうちに、下のえのようなわを、作っ



てみました。よくみると、このわは、とてもおもしろいことがわかりました。

「おや、おもしろいぞ、このわには、うらも、おもてもないよ。」

と、いいながら、しげお君は、えんぴつで、わの外がわから、線をひいていくと、またもとのところまでもどってしまいます。

●はさみで、まん中をたてにふたつに切ったら、わが二つできるでしょうか。

●二かいねじって、はってきいたらどうでしょう。

●三かいねじったらどうでしょう。



お店のじゅんぴも、できました。

きれいにかざりつけてあるお店で、いよいよお店ごっこを、はじめることになりました。あきら君たちのはんでは、ぶんぼうぐを売ることについて、つぎのようなことに気をつけてすることにしました。

- お金をうけとる時にはしらべてから受けとる。
- 品物は 数をまちがえぬように^{わた}渡す。
- 売り上げた品物は、わかるように表にしておく。
- つり銭のある時には、計算をまちがえないようにする。

お客さんが来はじめました。

「ノートを、3さつ、くださいな。」

定価8円のノート3さつで、100円さつをだしました。

●おつりは、いくらあげればいいでしょう。

●どんな、お金でだしたらいいでしょう。

つぎは、一本3円のえんぴつ1ダースと、一つ36円の、ふてばこを買いに来ました。

●このだい金は、いくらになるでしょう。

一くみ20円の、三角定ぎと、一つ13円のコンパスと、一つ10円ののりとを、買いに来ました。

●このだい金はいくらになるでしょう。

よく売れるので、あきら君たちは、大そういそがしそうです。

お金をうけとる。品物をわたす。おつりを計算してわたす……………。

まちがえないように、気をつけながら、お客さんを、またせないようにすることは、なかなか大へんなしごとです。

一時間ほどで、しなものがずいぶん少なくなって来ました。売り上げのせいをしようとしています。

す。あきら君たちは、下のような表を作ってせいでいりしようとしています。

しなもの	仕入れた数	のこり	売った数
ノート	100 さつ	24 さつ	76 さつ
えんぴつ	5 ダース	3 本	
けしゴム	5 ダース	27 こ	
したじき	40 まい	8 まい	
ふてばこ	20 こ	3 こ	
三角定ぎ	20 くみ	6 くみ	
コンパス	60 こ	12 こ	
のり	3 ダース	15 こ	
色紙	100 たば	19 たば	

●上の表の売った数を書き入れてみましょう。

かおるさんは売り上げ金を数えています。

100円さつ、10円さつ、5円さつ、1円さつなどをそれぞれ10まいずつにたばねて数えています。

よし子さんは売り上げ金がいくらになればいいかを計算によってもとめようとして、下のような表を作りました。

しなもの	1つのねだん	売った数	売り上げ金
ノート	8.00	76	
えんぴつ	3.00	57	
けしゴム	2.50	33	
したじき	25.00	32	
ふでばこ	36.00	17	
三角定ぎ	20.00	14	
コンパス	13.00	48	
のり	10.00	21	
色紙	2.50	81	
合計			

よし子さんは、けしゴムの売り上げ金を計算するのに 2.50×33 ができないので 銭たんいで 250×33 として考えています。

私たちも計算してみましよう。

きよし君は、もうけについてしらべています。そうだんして、まず下のような表によって一このもうけを計算しておいて、全体のもうけをだそうとしています。

品物	売りね	仕入れねだん	1このもうけ
ノート	8.00	7.20	
えんぴつ	3.00	2.40	
けしごむ	2.50	2.25	
したじき	25.00	20.00	
ふでばこ	36.00	31.80	
三角定ぎ	20.00	16.00	
コンパス	13.00	10.40	
のり	10.00	8.00	
色紙	2.50	2.15	

それぞれの一このもうけは、どのように計算すればいいでしょう。

それぞれ、一このもうけはいくらでしょう。円たんいでも、いつてみましよう。

全体の もうけは、 どうしたらだせるかを考
えて、 つぎのような表にすることにしました。

しなもの	一このもうけ	売った数	全体のもうけ
ノート	円 80 銭	76	
えんぴつ	円 60 銭	57	
けしゴム	円 25 銭	33	
したじき	5 円	32	
ふてばこ	4 円 20 銭	17	
三角定木	4 円	14	
コンパス	2 円 60 銭	48	
のり	2 円	21	
色紙	円 35 銭	81	
<hr/>			
合計			

もうけは、どのように計算すればいいでしょう。
私たちが計算してみましよう。

かず子さんたちも あきら君たちの考えている
のと、同じようなしかたでせいりしています。

私たちが、くふうしてじょうずなお店ごっこを
してみましよう。



練習

(1) 一はこ 28円50銭のわりで クレヨンを2ダ
ース仕入れて、これを一はこ30円ずつに売れば
いくらのもうけがありますか。

(2) なごやから せとものを、一こ12円のわりで
350こ 仕入れました。これを一こ15円ずつに売
れば、いくらのもうけがありますか。
また、この中で30こ、こわれものがあれば、も
うけはいくらになるでしょう。

(3) つぎの表の売り上げ高を計算しなさい。

品物	売りね	こ数	売り上げ高
たまご	9.50	68こ	
のり	35.00	45じょう	
ふくじんづけ (びんづめ)	45.00	13こ	
やまと (びんづめ)	62.00	24こ	
パイナップル (かんづめ)	118.00	13こ	

●上の売り上げ高の合計はいくらになるかを計
算しなさい。



テスト

(1) つぎの計算をしなさい。

48.5	57	39.75	50
$+ 3.5$	$+ 4.5$	$- 34.88$	$- 3.6$
<hr/>	<hr/>	<hr/>	<hr/>
27	8	403	356
$\times 48$	$\times 267$	$\times 12$	$\times 24$

(2) たまごを、1こ8円のわりで仕入れ、これを1こにつき、10円ずつに売ろうと思う。

このたまごを 4こ売ってもうけるだけのお金を5こ売ってもうけるようにするには、1こいくらに売ればいいですか。

(3) ふつうにもうけというのは、つぎのうちのどれですか。

- (い) 買ったねだん (ろ) 売ったねだん
 (は) 売りねから買いねをひいたもの

(4) 遠い所へ買いに行って 1000円で買った品物を 1000円で売るとどうでしょう。

- (い) もうかる (ろ) そんする (は) そんとくなし

この単元のまとめ

- (1) お店の人が、とんややせいぞうもとから仕入れる時のねだんを、その品物のげんかという。
- (2) お店の人は、げんかにいくらかのもうけをみこんで、品物を売るねだんをつける。このもうけを、りえきという。
- (3) お客さんに 品物を売る時のねだんを、定価という。
- (4) 品物の 定価を書いた 表を、 定価表という。
- (5) 品物を売る人は、うけとったおかねをまちがないかよくしらべてうけとる。またおつりをだす時には、よくしらべて正しくおつりをだす。
- (6) 品物を買うときには、なるべくおつりのないようにする。おつりをもらうときには、まちがないようによくしらべてから、うけとるようになる。



練習

(1) つぎの かけ算を しましょう。

$$\begin{array}{r} 36 \\ \times 27 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 53 \\ \times 89 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 25 \\ \times 48 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 74 \\ \times 62 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 68 \\ \times 87 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 376 \\ \times 8 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 129 \\ \times 9 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 526 \\ \times 7 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 291 \\ \times 6 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 492 \\ \times 5 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 534 \\ \times 3 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 372 \\ \times 9 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 418 \\ \times 6 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 295 \\ \times 8 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 625 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 8 \\ \times 172 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 5 \\ \times 938 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 4 \\ \times 793 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 9 \\ \times 216 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 7 \\ \times 767 \\ \hline \end{array}$$

(2) つぎの わり算を しましょう。

$$4 \overline{)536} \quad 8 \overline{)936} \quad 6 \overline{)786} \quad 5 \overline{)4260}$$

$$9 \overline{)6201} \quad 7 \overline{)3192} \quad 3 \overline{)2691} \quad 4 \overline{)1512}$$

$$6 \overline{)4548} \quad 8 \overline{)1984} \quad 9 \overline{)1701} \quad 7 \overline{)2618}$$



テスト

(1) つぎの の中に、下の () の中のことばを入れなさい。

(定 価, 仕入れねだん, もうけ)

仕入れねだん + もうけ =

定価 - もうけ =

定価 - 仕入れねだん =

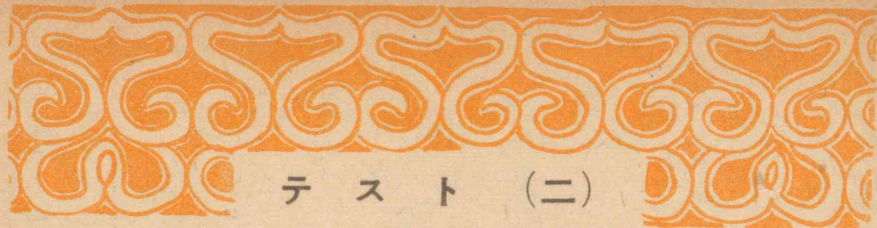
(2) しげる君たちは、お店ごっこで

品 物	1この仕入れねだん	定 価	売れた数
りんご	8.50	10.00	28
みかん	2.30	4.00	34
なし	9.60	11.00	25

(い) 1こについてのもうけは、それぞれいくらですか。

(ろ) 全体として、一ばん もうけの多かったのは、何ですか。

(は) また、全体として、一ばん もうけの少なかったのは何ですか。



テスト (二)

(1) かず子さんは、一さつ13円のノートを7さつ買いました。お店の人は「たくさん買っていただいたから、全体で、8円ねだんをおひきしましょう。」といました。お店の人は一さつについて、いくら、おまけしてくれたのでしょうか。

(2) 132円75銭のお金をはらうのに、おさつの数を一ばん少くするには、どのようにはらったらいでしょうか。下のおさつの横の () の中にいるまい数を書き入れなさい。

百円さつ ()	十円さつ ()
一元さつ ()	五十銭さつ ()
十銭さつ ()	五銭さつ ()

(3) 上のお金を、10円さつと、5銭さつとではらうとしたらば、おさつは、それぞれ何まいずついるでしょう。

XI 四年のせいり

四年もおわり近くなりました。あきら君の組では、この学年の一年間の総まとめをすることになりました。まとめるものについてそうだんして、算数に関係のあることとして、つぎのようなことをまとめることにしました。

1. 学級費のせいり。
2. 学級文庫のせいり。
3. 計算のまとめ。

それぞれ 手分けしてはじめました。



日	摘要	収入	支出	差引残高
4//	学級費 10人分	150		

一 学級費のせいり

あきら君は、学級費のせいりにあたりました。

学級費について書きこんだ帳面は、上のようになっています。

上の表で、収入(しゅうにう)支出(ししゅつ)差引残高(さしひきざんだか)とは何ですか。

また、その間にはどんな関係がありますか。

あきら君の組では、今年は、8月をのぞいて毎月一人15円ずつあつめました。

学級費は一ヶ月いくらあつまりますか。

一学年間ではいくらになるでしょう。

帳面では、一学年間の収入は7635円になっています。あといくらあつまっていないでしょう。

それは何人分ですか。



学級費は、組でつかう紙などの買い入れ、どこかへ見学に行く時の電車ちん、学級文庫の本などを買うのに使います。あきらくんは一年間に使った費用を、

それ等の種類に分けてみました。

半紙やわら半紙	2142 円
のりやびょうなど	465 円
電車ちん	1280 円
文庫の本代	2840 円
そのたのもの	687 円

つかったお金はいくらでしょう。いま、のこりのお金はいくらあるでしょう。ぜんぶしゅう入があつたとしたら、いくら残るでしょう。

ことはもう学級費をつかうよていがありません。このお金をどうしたらいいでしょう。

私たちも、自分の学級費をせいりしましょう。

二 学校文庫のせいり



ひでお君は学級文庫のせいりをするようになりました。

本の名前をかいてある帳面をみると、二年の時から買った本がのっけて、つぎのようでした。

二年の時はいった本	135冊
三年の時はいった本	196冊
四年の時はいった本	241冊

今文庫の本は何冊あることになるでしょう。

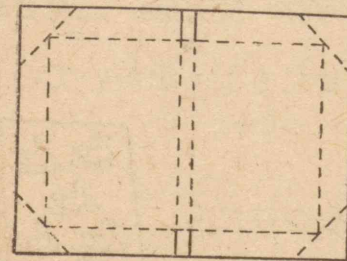
戸だなには本が4段になってはいつています。どのだんも同じ数ずつはいつているとすれば、一段には、何冊あればいいでしょう。

ひでお君がしらべたら、本は528冊ありました。何冊たりないでしょう。ひでお君は、たりない本をしらべて、あした、みんなにきくことにしました。

本をしらべてみると表紙がよごれたり、いたんだりしているものが、ずいぶんありました。ひでお君は、やぶれた所をはり、上におおいをつけることにしました。

おおいには、どんな形の紙をつくったらいいでしょう。ひでお君は、わら半紙で、きりすてる所がないようにくふうして作っています。

おおいをつけてしまってから、その中の一冊がまだやぶれているのに気がついて、おおいをはずしてなおしました。おおいの紙をひろげてみたら下のようになっています。図の一線ははさみで切りこん



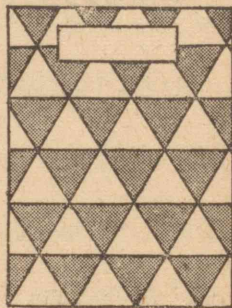
だ所……線はおった所です。本のどこにあたるか考えてみましょう。私たちも、自分の本におおいをつけましょう。

おおいをつけた本は、全部で50冊ありました。
 白くておかしいので、もようをかくことにして、ひ
 でお君は組のもの一人に一冊ずつかいてもらうこと
 にしました。

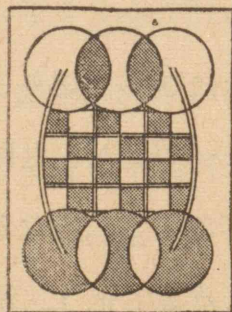


みんなはいろいろくふうしてい
 ます。花や鳥のもようをかく人も
 あるし、コンパ

スや定木をつかって書いている人
 もあります。コンパスや定木をつ

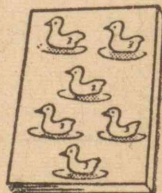


かって書いて
 いる人たちは、



円や正方形、長方形、三角を組
 み合わせたもようをかいていま
 す。

おおいにはどんなもようをつけたら
 いいでしょう。私たちもかきましょう。



三 計算のまとめ

かず子さんやちよ子さんは、四年になってならつ
 た計算のし方を 表にして、まとめています。

四年になって新しくならった計算のし方は、つぎ
 のようでした。これは、かず子さんたちが作った
 「計算のまとめ」の表です。

よせざん

1. よせる数とよせられる数を取りかえて
 も答は同じである。

$$345 + 269 = 269 + 345$$

2. たくさんの数をよせる時に たしやす
 いように、じゆんじよをかえてもよい。

$$9 + 8 + 2 + 1 = \underbrace{9 + 1} + \underbrace{8 + 2} = 20$$

3. もんだいで、よせざんをつかうのは、
 つぎのような時である。

(イ) みんなでいくつか。

(ロ) あわせていくつか。

ひきざん

1. ある数からいくつかの数をひく時に、ひく数をたして、それを引いても答は同じである。

$$10 - 2 - 3 - 4 = 10 - (2 + 3 + 4) = 1$$

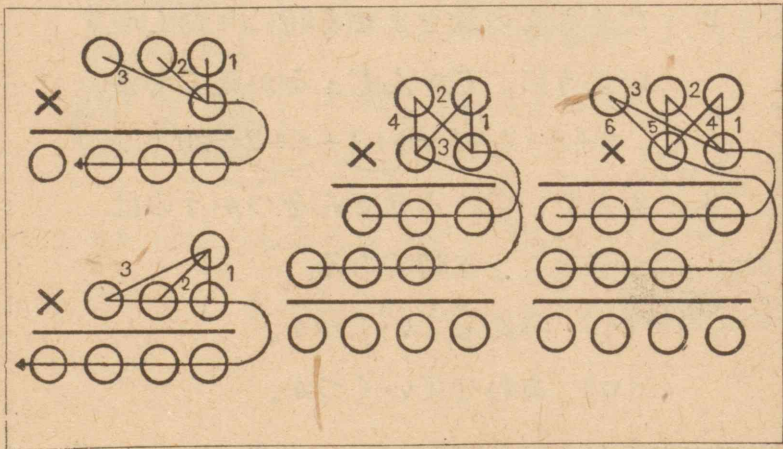
2. もんだいで、ひきざんをつかうのは、つぎのような時である。

(イ) どれだけちがうか。

(ロ) あとどれだけあるか。

(ハ) どけだけなくなったか。

(ニ) どれだけ残っているか。



わりざん

1. わりざんのしるし……………÷

2. わりざんをつかうとき

1. ぜんたいの中にいくつあるか。

2. いくつかの同じ大きさに分ける。

3. 何倍か。

3. わりざんは、かけ算九九で答をみつける。

$$42 \div 7 \dots\dots \square \times 7 = 42 \quad \text{六七} 42$$

4. ちょうどわりきれない時のしかた。

(イ) およそいくつ (≐)

(ロ) あまりを出す、

$$11 \div 3 = 3 \quad \text{あまり} 2$$

$$11 \div 3 \doteq 4$$

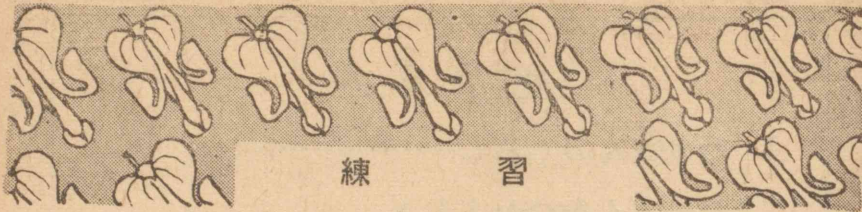
5. ○○○÷○のしかた

$$\begin{array}{r} \text{○○○} \\ \text{○)○○○} \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 125 \\ 4 \overline{)500} \end{array}$$

みんなは、この表をみて、おたがいに問題を出しあつて、けいさんしています。

私たちもしましょう。



練習

(1) つぎのよせざんをしなさい。

$\begin{array}{r} 3458 \\ \underline{2673} \end{array}$	$\begin{array}{r} 4791 \\ \underline{2649} \end{array}$	$\begin{array}{r} 28 \\ 35 \\ \underline{163} \end{array}$	$\begin{array}{r} 328 \\ 451 \\ 632 \\ \underline{789} \\ 2236 \end{array}$
$\begin{array}{r} 8460 \\ \underline{1540} \end{array}$	$\begin{array}{r} 5239 \\ \underline{3885} \end{array}$	$\begin{array}{r} 287 \\ \underline{96} \end{array}$	

(2) つぎのひきざんをしなさい。

$\begin{array}{r} 5316 \\ \underline{1478} \end{array}$	$\begin{array}{r} 9032 \\ \underline{3989} \end{array}$	$\begin{array}{r} 8140 \\ \underline{4153} \end{array}$	$\begin{array}{r} 10000 \\ \underline{7890} \end{array}$
---	---	---	--

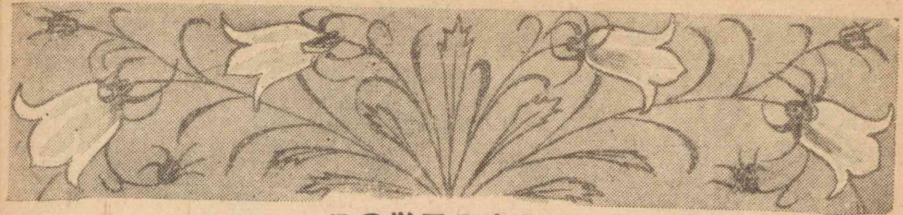
$8912 - 354 - 146$ $7000 - 254 - 254$

(3) つぎのかけざんをしなさい。

$\begin{array}{r} 652 \\ \underline{8} \end{array}$	$\begin{array}{r} 749 \\ \underline{7} \end{array}$	$\begin{array}{r} 9 \\ \underline{385} \end{array}$	$\begin{array}{r} 6 \\ \underline{718} \end{array}$
$\begin{array}{r} 84 \\ \underline{69} \end{array}$	$\begin{array}{r} 56 \\ \underline{95} \end{array}$	$\begin{array}{r} 168 \\ \underline{43} \end{array}$	$\begin{array}{r} 207 \\ \underline{37} \end{array}$

(4) つぎのわりざんをしなさい。

$\overline{7)602}$	$\overline{9)711}$	$\overline{5)2100}$	$\overline{6)1050}$
$\overline{8)413}$	$\overline{4)375}$	$\overline{6)1490}$	$\overline{9)3041}$



この単元のまとめ

(1) 学級費やこづかいは、しゅう入や支出をよくつけておいて、てきとうな時にしめくくりをすることが大せつである。

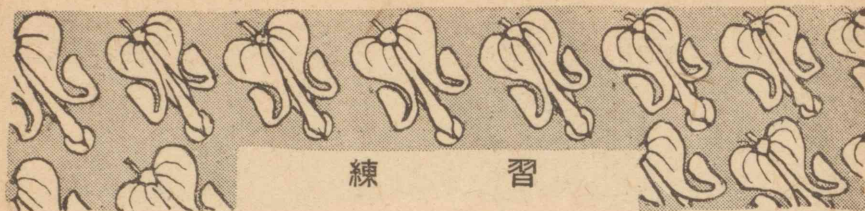
(2) こづかい帳のように、お金の出し入れを書く帳面は、ふつうつぎのようになっている。

月日	しゅう入	支出	差引残高

(3) 正方形、長方形、円などの形をくみ合わせていろいろなもようを作ることが出来る。

(4) 計算は算数の大もとになる力だから、この一年にならったことをよく復習して、じょうずにできるようにすることが大せつである。

(5) 計算のしかたの総まとめや、そのほかこの一年間にならったことをよく復習して、四年の算数がすっかりわかるようにするがよい。



(1) つぎのけいさんをしなさい。

$\begin{array}{r} 43.8 \\ 22.6 \\ +80.7 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 3.72 \\ .78 \\ +.6 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} .44 \\ 7.82 \\ +3.01 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} .35 \\ 21.6 \\ +3.28 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 63.2 \\ -28.5 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 53.06 \\ -4.09 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 5. \\ -1.93 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 10.8 \\ -9.86 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 670 \\ \times 9 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 362 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 91 \\ \times 83 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 238 \\ \times 37 \\ \hline \end{array}$

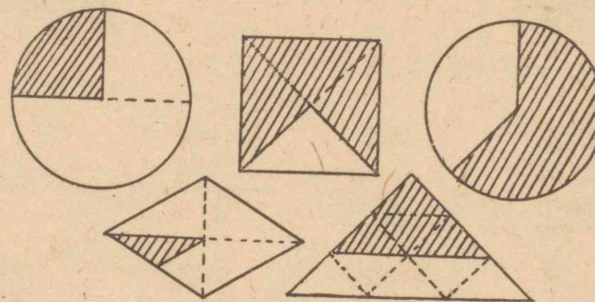
(2) つぎのこたえは やく いくつとえばよいですか。

$17 \div 4$	$34 \div 7$	$47 \div 5$	$62 \div 8$
$50 \div 6$	$76 \div 9$	$22 \div 4$	$60 \div 7$

(3) つぎのわりざんは あまりも 出しなさい。

$8 \overline{)23}$	$3 \overline{)35}$	$4 \overline{)87}$	$9 \overline{)881}$
$7 \overline{)736}$	$6 \overline{)280}$	$5 \overline{)933}$	$3 \overline{)683}$
$9 \overline{)6131}$	$7 \overline{)4293}$	$8 \overline{)6638}$	$9 \overline{)8185}$

(4) つぎの図で くろいところは 全体の何分の何にあたりますか。



(5) よし子さんたちはまもなく五年生になるので おともだちと6人できねん写真をとりました。写真代は 3まい一組で120円で やきまは1まい30円だそうです。6人でだれも1まいずつ写真を買うには、一人はいくらずつお金を出せばいいでしょう。

(6) 1足78円のげたを3足買って100円さつ3まい出せば、おつりはいくらあればいいでしょう。

(7) そつぎようしきをこうどうでするのに 四年生がいすはこびをします。936人分を用意するには 4人がけのいすが何きやくあればいいでしょう。



テ ス ト

(1) つぎのけいさんを しなさい。

$\begin{array}{r} 3526 \\ 1874 \\ +2685 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 9.3 \\ 4.81 \\ + 26.29 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 9103 \\ -4194 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 32 \\ -13.65 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 2 \\ \times 534 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 653 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 63 \\ \times 54 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 408 \\ \times 15 \\ \hline \end{array}$
$3 \overline{)402}$	$9 \overline{)378}$	$7 \overline{)1782}$	$8 \overline{)7857}$

(2) つぎの () の中に書いてある単位になおしなさい。

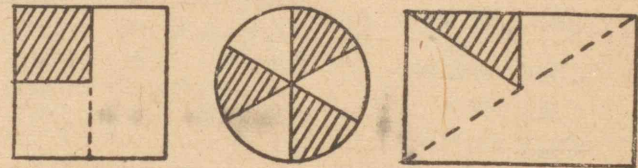
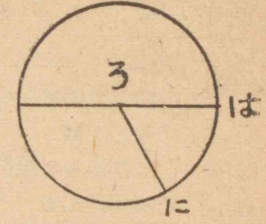
- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1 kg (g) | 1 m (cm) | 1 km (m) |
| 1 cm (mm) | 1 日 (時間) | 1 時間 (分) |
| 4.5 km (m) | 1.81 (dl) | 800 m (km) |
| 300 mm (cm) | 3 しゅうかん (日) | 7146 m (km) |

(3) じゃがいも 8本うねに、たねいも 312個をうえたといいます。1本うねに、何個ずつうえたことになりますか。またこのわりあいであれば 24 本うねには、何個のたねいもがいるでしょう。

(4) 右の図で 中心はどれですか。

半径、直径はどれですか。

(5) 下の図の くろいところ は ぜんたいの何分の何にあたり ますか。



(6) 160 ページの本を 1 しゅうかんて読むには 1 日ならして 何ページずつ読めばいいでしょう。

(7) えんぴつ 12 ダースが はこにはいっています。これは何本ですか。このえんぴつを一人に 3 本ずつ分ければ、何人に分けられるでしょう。

(8) 中村さんは、四年生の四月に 24.5 kg でしたが 三月になってはかったら 28.1 kg になっていました。何キログラム ふえたでしょう。これは何グラムですか。

(9) 10000 は 1000 がいくつですか。

また、100 がいくつで 10000 になるでしょう。

単元内容一覧表 (上巻)

進度	単元名	指導内容 (数理)
四月	新しい学年 ○四年生になって ○生との数 ○これからの生活 ○身体けんさ	○10000までの数をよんだり書いたりする。 ○概数をとってよんだり書いたりする。 ○加法(和は10000以下繰り上りを含む) ○減法(被減法, 減数共に四位取, くり下りを含む) ○mm単位 $1\text{cm}=10\text{mm}$ ○kg, g, $1\text{kg}=1000\text{g}$ の伏線
五月	春の遠足 ○遠足のけいかく ○遠足の費用 ○遠足のおやつ	○時刻表, 時刻と時間(1分単位) ○かんたんな案内図, ○乗法(二・三位数 \times 一位数; 一位数 \times 二・三位数) ○乗法(乗数, 被乗数を交換してたしかめる)
六月	私たちの町 ○町の地図 ○きょりしらべ ○私たちの家	○かんたんな地図 ○kmを用いて測定する。 $1\text{km}=1000\text{m}$ km単位で距離を表わす。(概測) ○北東, 北西, 南東, 南西等の方位 ○直径, 半径, コンパスを用いて円を描く ○歩測の初歩
七月	水泳 ○水泳のじゅんぴ ○川の深さ	○ $\frac{1}{10}$ までの小数を使って量を表わしたり, 表わした量を理解する。 $\frac{1}{100}$ までの小数を使って量を表わしたり, 表わした量を理解する。 ○小数を用いて加法, 減法をする。 ○折れ線グラフを作る。
八月	夏休みのおけいこ ○夏休みの自由研究 ○夏休みのおけいこ	○温度・表・グラフ ○棒グラフと折れ線グラフ ○地図をかくこと
九月	学用品の買い入れ ○帳面の買い入れ ○うんどうぐつ の買い入れ ○半紙の配給	○二位数 \times 二位数の乗法 ○三位数 \times 二位数の乗法 ○二位数 \times 三位数の乗法 ○乗数と被乗数とを交換してたしかめる。

単元内容一覧表 (下巻)

進度	単元名	指導内容 (数理)
十月	運動会 ○運動会のけいかく ○運動会の練習	○除法の意味 ○乗法九九を適用してする除法 (余りのない場合) ○円の直径, 半径, 円筒 ○測定(巻尺を用いる)
十一月	学級園のとり入れ ○組分け ○重さくらべ ○いもの数 ○一つのいもの重さ	○除法 二位数 \div 一位数で答が一位数, 余りのある場合, 二位数 \div 一位数 三位数 \div 一位数, 四位数 \div 一位数, 余りのある場合に及ぶ。 ○除法の答のためし方 ○g単位で重さをはかる。 $1\text{kg}=1000\text{g}$
十二月	年のくれ ○炭はこび ○買い物	○除法 三位数 \div 一位数, 四位数 \div 一位数で余りのある場合に及ぶ。 ○和の意味をまとめる。 ○差の意味をまとめる。 ○加法交換の法則。 ○減数をまとめて被減数より引く。
一月	新年 ○こよみ作り ○新年こども会	○こよみ ○正方形, 長方形等の図形 ○単位分数 (分母16までの分数を用いて量を表わしたり表わした量を理解する)
二月	お店のけんきゅう ○お店しらべ ○お店のようい ○お店ごっこ	○原価, 定価, 利益の関係 ○定 價 表 ○売り上げ, 売り上げ帳の整理
三月	四年のせいり ○学級費のせいり ○学級ぶんこのせいり ○計算のまとめ	○小づかい帳 ○諸計算の復習, 整理(和, 差の意味) ○長方形, 正方形, もよう等の形の観察 ○加減乗除の総練習

さくいん表 (下巻)

種別	本書の提出ページ
数えたり、 書いたり する数	
加法	31 和の意味 133 交換, 61~76
減法	31 差の意味 134 まとめて引く, 61~76
乗法	31, 59, 60, 75, 76 124, 134
除法	○乗法九九を用いる除法, 余りのない場合 4~34, 125, 135 ○乗法九九を用いる除法, 余りのある場合 35~60, 135 ○第二位数÷基数
測定	○ 1分単位 59 ○ km単位 75, 140 ○ mm単位 75, 81, 140 ○ g 単位 75, 140 ○ 方位 ○ 角 83, 84
名数	○ 1 km = 1000 m ○ 1 cm = 10 mm ○ 1 kg = 1000 g
問題解決	26, 32, 56, 57, 85, 86, 97, 98, 108, 121, 122, 125, 126, 139, 141
実務	○ 時刻表 ○ こよみ 78~82, 97, 102 ○ こづかい帳 ○ 店 104~122, 125, 126 ○ 賣上帳 117~120
分数	○ 単位分数 88~95, 98, 101, 139, 141
小数	60, 75, 76, 101
グラフ 地図, 縮図	○ 折れ線グラフ ○ 二次元の表 34 ○ かんたんな案内図
図形	○ 直径, 半径 19, 20, 21, 22, 24, 26, 33, 76 ○ 正方形, 長方形 23, 83~86, 99, 100, 132 ○ 角 83~85 ○ コンパス定木で図形をかく 30, 132

小学算数 四年下 (小学校第四学年後期用)
Approved by Ministry of Education (Date Apr. 6 1950)

昭和25年4月6日印刷
昭和25年4月10日発行
(昭和25年 月 日 文部省検定済)

12	小算 418
二葉	

定価 円

著者 原弘道 根本力雄 花村郁雄
中村 薫 土方敏夫 福田正一郎

東京都北区稻付町1丁目208番地
発行者 二葉株式会社
代表者 大野治輔

東京都北区稻付町1丁目208番地
印刷者 二葉株式会社
代表者 大野治輔

東京都北区稻付町1丁目208番地
発行所 二葉株式会社

絵をかいた人: 六郷好見, 船崎光治郎, 藤沢龍雄



広島大学図書

0130449696



年	なまえ
組	

二葉株式会社

教
34
013